

2015 年度

ベトナム短期語学研修 報告書

2016 年 2 月 26 日～2016 年 3 月 10 日



茨城大学・フエ大学

— 目次 —

「ベトナム短期語学研修の旅」レポート	
本田 茄純	p. 3
菊地 ほのか	p. 8
森田 未紀	p. 14
鈴木 美緒	p. 18
鮎川 南	p. 22
篠原 結衣	p. 26
引地 菜緒子	p. 31
高橋 遥	p. 34
栗林 朝美	p. 38
橋本 理沙	p. 41
佐藤 登代子	p. 44
小笠原 武仁	p. 49
安島 清武	p. 54
伊藤 哲司	p. 57
Trang 先生からのメッセージ	p. 62
写真集	p. 63
ベトナム研修のしおり	p. 78
シラバス	p. 89
広報：「ベトナム短期語学研修の旅」へのお誘い	p. 90

ベトナムの人々の「暖かさ」に触れて

本田 茄純

1. この旅に参加したきっかけ

私が今回ベトナム短期語学研修に参加したきっかけは、大学最後の卒業旅行としてどこに行こうか頭を悩ませていた時、伊藤先生からのお誘いを受けたことが始まりです。私は、どうせ旅行をするなら観光として楽しむだけではなく、出会い、そして学びの多いものになりたいと考えていたので、迷わずこの研修に参加することを決断しました。私自身海外旅行が大好きで、さまざまな国を旅行して来ましたが、ベトナムを訪問するのは初めてということもあり、事前にベトナムに関する知識や注意点などを把握しながらのぞみました。また、ベトナム研修前に参加メンバーでの交流会、数回にわたる事前学習会を開いたことで、研修に臨む姿勢がだいぶ変わったと感じています。事前学習会でベトナム戦争に関する映像を鑑賞し、勝った側の北ベトナム、負けた側の南ベトナムが存在するということが、そして負けた側のベトナムでは、今もなお葛藤を抱き続けている人々がいるということを知りました。国家の表面的な部分だけではなく、背景や隠れた部分に目をむけることで、より深くその国を理解することが出来るのではないのでしょうか。

2. ホームステイに参加して

今回の研修では、1泊2日のホームステイを体験する機会があり、私はフエ外国語大学で日本語を学ぶヒンちゃんの家でホームステイをすることになりました。彼女の家庭は父母妹の4人家族で、家に着くと夕飯を作ってくれてくれました。まず皆で美味しいフエビールで乾杯し、夕食を頂きました。この日のためにお父さん、お母さん、妹の3人がかりで特別に作ってくれたフエの家庭料理は、驚くほど美味しく、箸が止まりませんでした。私が美味しいと言うと、お母さんはとても嬉しそうに「もっと食べなさい」と料理を私の茶碗によそってくれ、久しく味わったことのない懐かしさ、暖かさが感じられました。フエ料理は唐辛子を使用した比較的辛いものが多いと聞いていましたが、お父さんは唐辛子をご飯のおかずにして食べており、辛いもの好きの私も真似をして食べてみるとあまり

の辛さに言葉を失いました。フエ人の辛いもの好きは私の想像をはるかに超えていたのです。



(ホストファミリーの皆さんと私)



(フエの家庭料理)

会話は言葉が全く通じないので、ヒンちゃんの通訳に頼りっぱなしでしたが、笑顔や雰囲気、ジェスチャーで言葉の壁はカバーすることができ、何よりも大切なことは「伝えようとする」ことであると感じました。言葉が伝わらないからそれで終わりというのではなく、あらゆる表現方法で自己主張をするという過程が重要なのではないのでしょうか。とは言っても、やはり言葉が通じないというもどかしさや悔しさを痛感し、そのもどかしさから私は「ベトナム語でベトナムの人々と会話をしたい」という衝動に駆られました。このホームステイがあったからこそ、その後のベトナム語講座においてより熱心に授業に取り組むことができたのだと思います。1泊2日というとても短い時間でしたが、私にとってこの経験は、ベトナムの家庭の様子や文化、習慣を学ぶだけでなく、家族の一員として迎え入れてもらったような、何ともいえない暖かさが残りました。いつかまた、ヒンちゃん家族に会いにフエに戻って来れたら良いなと思います。

3. 突然の食あたり、3泊4日の入院を通して

私はベトナム滞在6日目にして、食あたりを起こしてしまいました。事前学習会から、ベトナムで食事をする際は、必ず手を清潔にすること、水道水、氷、生ものは避けることを念頭に置き、忠実に実行してきましたが、このような結果になってしまいました。初めは悪寒から始まり、高熱が出るなどの症状が出始め、医者から重度の食中毒と告げられ、結

果的に 3泊4日の入院をすることになりました。私にとって人生初の食あたり、そして人生初の入院が海外という、良い意味で捉えれば、貴重な体験をすることが出来たと思います。しかし、私が入院中の間には、終盤を迎えたベトナム語講座、高校訪問、ドラゴンボートなど、どれもすべて私が楽しみにしていたイベントが予定されており、せっかくのベトナム研修を4日間も棒に振ってしまったと、当初はとても落ち込んでいました。ホームステイ先でお世話になったヒンちゃんや、友人になったベトナムの生徒たちからも、たくさんの遊びのお誘いを受けましたが、事情を話し泣く泣く断念することになりました。彼女たちからは多くの励ましのメッセージが届き、「勉強するため、遊ぶため、早く元気にならなきゃいけない、早く元気にならなきゃならないね！」これら一人一人のメッセージは、私に元気を与えてくれました。メッセージだけではなく、彼女たちは、すぐさま病院へとお見舞いに駆けつけてくれたのです。



(入院中の病室にて)

突然の訪問で驚きましたが、それ以上に彼女たちの優しさに感動しました。訪問は1回だけではありません。なんと毎日交代でお見舞いに来てくれたのです。中には朝から夜遅くまで、私に付き添ってくれた子もいました。そして、ヒンちゃんのお母さんもお見舞いに来てくれました。私がヒンちゃんの家で食べた夕食の味が忘れられず、いつかまた食べたいと言っていたのを覚えていてくれ、ほとんど食べ物をうけつけない私のために、消化の良い手作りのお弁当をわざわざ病院に届けてくれたのです。あの時のお弁当の味は今でも忘れることが出来ません。数多くある美味しいベトナム料理の中で、最も心に残る味となりました。

私は彼女たちの付き添いと明るさのおかげで、病室で一人孤独になることはありません

でした。むしろ楽しい入院生活をおくれたような気がします。医者、看護師をはじめ、皆さんのおかげで順調に回復し、フエ滞在最終日には無事に退院することが出来ました。フエからホーチミンへは午後のフライトだったので、時間までフエを案内してもらいました。最後に彼女たちと楽しいひと時を過ごすことができ、本当に良かったです。別れの際は、不思議とまったく悲しさはありませんでした。なぜなら、再び会えると心の中で確信していたからです。この出会いは決して一時的なものではなく、これからもずっと続く大切なものとなりました。今回の入院は私にとって不幸中の幸いと表現して良いか分かりませんが、この入院があったからこそ、人の本当の暖かさに触れることが出来たと感じます。苦しき以上に、感謝で溢れる貴重な経験となりました。



(見送りの様子・バスからの撮影)

4. 最後に

この研修に参加するきっかけを与えてくださった伊藤先生は、かつてベトナムの不思議な魅力について語っておられました。それまで私はベトナムの魅力はどこにあるのか、はっきりと感じとることができませんでした。実際にベトナムを訪れ、自分の肌で、目で、耳でベトナムを感じ、その不思議な魅力にやっと気づけたような気がします。ベトナムの魅力は人それぞれ感じ方が異なると思いますが、私が感じた魅力は「人」です。ベトナムの人々は活気に満ち溢れ、適当さと真剣さを持ち合わせた、情熱的な人々がそこにはいました。一体どのように表現すれば良いのか分かりませんが、なぜかベトナムの人々に惹かれてしまうのです。その理由の一つとして人との「距離感」が関係しているのではな

いかと思います。日本では、初対面や他人に対してはある一定の距離感を保たなければいけないという暗黙の了解ができています。ところが、ベトナムではその距離感があまり感じられませんでした。初対面なのに、初めて会ったような感覚がなく、すでに慣れ親しんだ友人のような関係が築けてしまうのです。日本にもベトナムの友人はいますが、皆日本人にはない明るさと親しみやすさを兼ね備えています。これらを始めとして、私はベトナムの人々から学ぶべき点が多々あります。ベトナムは急速な成長を遂げ、今後もさらなる発展が予想されますが、その中でもあの人情味あふれる人々の姿に惹かれベトナムを訪れる人々は少なくないのではないのでしょうか。

最後に、引率して下さった伊藤先生、安島さんそして参加メンバーの皆様にご心より感謝申し上げます。体調を崩した際、とくに伊藤先生、安島さんには大変お世話になりました。病院での手続き、飲食物の提供など、お二人の熱心なご協力のおかげで、無事に日本へ帰国することができました。今回のベトナム短期語学研修は、まさに大学生活の最後を締めくくる、非常に価値のある旅となりました。そして、新たな出会いに心から感謝したいと思います。次回のベトナム訪問では、どのような展開、出会いが待っているのか今から楽しみで仕方がありません。



ベトナム短期語学研修を終えて

菊地 ほのか

1. 出発前

今回、この研修に参加したのに大きなきっかけはなかった。あえて言うなら、大学に入ってから「一度は海外に行ってみるべきだ」という言葉をよく耳にしてきたことだろうか。私自身一度も海外へ行ったことがなく、大学生のうちに行ってみたいという気持ちは強くあった。サークルを引退して時間が取れたこと、初の海外なので友人と行く観光より安全そうに思えたこと、近頃テレビなどを通してベトナムという国名をよく耳にしていたこと。そういったことが重なりあい、気づくと軽い気持ちで参加を決めていた。

参加を決めた後は、事前研修でベトナム戦争に関するドキュメンタリーを見たり、シンポジウムに参加したり、ベトナムに関する書籍やガイドブックを読むなどした。ベトナム語の事前研修も行われたが、日程が合わなかったために一度も参加できなかった。不安もあったが、“ベトナムで学ぶのだからなんとかなるか”という気持ちもあった。そういうわけでベトナム語では自分の名前とお礼と挨拶しか言えないまま、ベトナムへと発った。

2. ベトナムにて

2-1. 第一印象

成田からホーチミンの空港に到着した。飛行機の乗り換えのために出た外は暑く、祖母の家のような懐かしいにおいがした。多くの人であふれていたが、なぜか日本の都市のような騒がしさがなかった。

すぐにまた飛行機でフエへ向かった。空から見える景色は、ビルから畑に変わっていった。フエに到着すると、空港からはホテルへバスで向かった。バスからのフエは、電飾とバイクと、クラクションの音が印象的な街だった。特にバイクは日本での車ほどの量が道を占めていて、信号もあまりないため道を渡るのは一苦労だった。



▲2016/02/26 フェエへと向かう飛行機から



▲2016/02/26 川辺のホテルからの夜景

2-2. 人との交流を通して

去年の報告書を読んで気になっていたのが「ベトナム人は距離が近い」ということだった。どういうことなのかあまり想像がつかず、ぐいぐい距離を詰めてくるということなのかな、と考えていた。私は今回の研修を通して、それが「壁を作らない」ということなのかもしれないという結論をだした。

私は会って間もない人と距離をとるのが苦手である。年下・同歳かかわらず敬語になってしまい、自分をとりつくろってしまう。ベトナムに発つ前に、同じゼミのベトナム人留学生と話す機会があったのだが、研修で気を付けることを尋ねたところ「学生と敬語で話さないで」と言われた。彼女はベトナムにいたころ日本人学生と話す機会があったそうだが、その時敬語で話されて距離を感じたそうだ。また、ベトナムの学生は敬語で話すより敬語でない方が話しやすいとのことだった。

2日目のホームステイでは、相手の学生とその友人2人と食事をしたのだが、仲の良い彼女たちの邪魔になっている気がしたのとベトナム語が話せないことから、なかなか自分から話しかけることができなかった。すると彼女たちに「あなたは口が重いね」、「話すことが好きではないの?」と言われた。それからは料理の感想を伝えたり、ベトナム語について質問したり



▲2016/02/27 ホームステイ 1日目

と、自分から話すことを心掛けた。食後に行ったカフェでは、互いの趣味や生活、恋愛の話など、日本の友人とするような話をした。会ったばかりなのに、自分をとりつくろわず自然な形で話すことができたのは、彼女たちがさまざまな質問を私に投げかけ、私のどんな質問にもとりつくろわずに答えてくれたからだろう。

ついでに、物理的な距離も近かった。その日あったばかりの、4~5人で話しているときはあまり自分から話さないような人と、道で隣を歩いていたら自然と腕を組んでいたこともある。それは決して不快ではなく、なんだか心地よかった。

また、今回の研修で特別仲良くなれた一人の学生がいる。彼女とは初日の交流会の後に学校の食堂で出会い、一緒に昼食を食べた。短い時間のわりに互いの国や生活のことなど色々話せたが、次に会えたらもっと話そうと約束はしたものの、その時は連絡先も交換せず、次にすれ違っても名前と顔が一致するか怪しかった。しかし、後日講義を終えて帰寮した際に、彼女が私を見つけて話しかけてくれ、どこか無意識に建前で約束をすることが当たり前になっていたことに気づかされた。再会した後は、お互い時間を作って食事やカフェに行ったり、寮でひたすら喋ったり、本当に楽しい時間を過ごせた。ホーチミンへと向かう日は、彼女の涙からもらい泣きをしてしまった。別れが悲しくて泣くほどの友人ができるとは、出国前は思いもしなかった。現在さまざまな手段で遠くにいる人と連絡がとれる環境にあるとはいえ、やはり別れがつかかった。この時交わした、「また連絡するね」、「また会おうね」という約束は最初にした無意識の建前の約束ではなかった。

ただ、「日本にも来てね」という言葉はどうしても言えなかった。彼女や他のベトナム人と話すなかで、ベトナム人が日本に行くのは簡単なことではないと分かったからだ。彼

女は大学から日本語を学びはじめ、今年で2年半になるとのことだったが、本当に日本語が上手で、なにより勉強熱心な努力家であった。日本への関心も高く、伝統文化から”ゆるキャラ”や若者言葉にも詳しくあった。そのため、軽い気持ちで日本に留学しないのかと尋ねたのだが、お金がかかってとてもできないとの答えが返ってきた。奨学金もあるが、枠がとても狭く、たとえ受けとれても物価が高くて生活できないそうだ。それを知って本当に切ない気持ちでいっぱいになった。私は日本に生まれただけで、今回、金銭的に（誤解を恐れずに言えば）気楽な気持ちでベトナムを訪れることができたのだと気づいた。そのことに気づいてから今まで、まだ具体的に自分の行動がなにか変わったということはない。ただ、気づいたことで自分の中でなにかが変わったと確かに言えるし、今後それがふとしたときに活きると思っている。

2-3. ベトナム語を学んで

これは本当に難しかった。語学を勉強することが楽なことではないと再実感すると同時に、日本語で会話してくれるベトナム人学生を尊敬した。ベトナム語で興味深いのは、相手と自分の関係を重視している点であった。ベトナム語は年齢や性別に注目して互いの人称が決まる。発音も難しく、文章を言うなかで6つの声調の区別をつけるのが大変だった。それでも茨大生やベトナム人学生と一緒に勉強して少しずつ話せるようになっていくのは、本当に楽しいことだった。

はじめは「英語が通じれば…」と思う場面もあったが、いざ英語を使う場面では英語も満足に使えない自分に気づいた。同じ寮に住む、他大学の学生と話す機会があったのだが、彼は日本語は話せないが英語を話せた。私も一応6年は英語を学んでいたの少しは話せるかと思ったが、質問を聞き取るのがやっとなで、発音は悪すぎてなかなか通じなかった。「英語が話せるからと言って国際人ではない。」というのは伊藤先生からよく耳にしていた、それは英語が通じないベトナムという国で強く実感できた。語学力がコミュニケーション力のすべてではない。しかし、手段の一つとして有効なのは確かであるとも身をもって感じた。

また、今回の研修でベトナム人学生と楽しく過ごせたのは、彼らが日本語を話してくれたからだろう。自分の生まれ育った国に興味をもってもらったり、質問されたりするのは（答えられるかは別として）思いのほか嬉しいことだった。私ももっとベトナムについて

勉強して、そのうえでベトナムについて質問したり学んだりできたらよかったと後悔している。次にベトナムに行く前に、この後悔を活かして勉強を続けたい。

2-4. そのほかのこと

ベトナムに行く前に不安だったことの一つが衛生面である。事前研修では「お腹は壊すものだと思っていた方がいい」とも言われていたが、食事の度にお腹を下すのではと緊張していた。食べ過ぎにも気を付けようと思っていたのに、それでも香草にも慣れたころには毎日おなかが苦しくなるほど食べていた。寮や学校のトイレは水洗とはいえ手動であった。最初は衝撃も受け、絶対に慣れないと思ったものだが、3日も経てば諦めなのか慣れなのか、最初に抱いた嫌悪感は消えていた。町中で鳴りやまないクラクションの音も、はじめは緊張が煽られるようで落ち着かなかったが、みな自分が通る合図として鳴らしているように気づくと、あまり気にならなくなった。そうやって、文化が違うと思ったことや、最初に無理だと思ったことを気づいたら乗り越えていた。日本での苦手な人やものも、もしかしたらそうやって乗り越えられるのでは、という少しの自信につながった気がする。



▲2016/03/04 市場のにおいには慣れなかった…

日本語を学ぶ学生数人に将来どんな職に就きたいのか聞いたところ、半分が日本語教師、もう半分が日系企業の社員とのことだった。「日本」という国について、客観的に考えられる機会となった。また、「日本人」や「ベトナム人」というようにひとくくりにすることに違和感を抱きつつも、やはり私たちは国の縛りから完全に脱することはできないとも思った。そのうえで、個人として交流することで国に対して寛容な理解ができる気がする。

3. 帰国したいま、これから

「話で聞くのと、実際に行ってみるのとでは違う」というのがよく分かった。その土地の雰囲気、におい、暮らしている人びとの顔…。

今回、研修という形でベトナムに行けたことで、観光では出会えなかった人と出会え、経験できなかったことが経験できた。ベトナム人学生との交流は前述したとおりだが、学部1～4年生と大学院生の合計12人の茨大生とともに研修に参加できたことも非常に良かったと思う。同じ経験をして抱く感想はさまざま、とても刺激になった。この貴重な経験がどう生きるかはまだ分からないし、それはきっと私次第だろう。無駄にせぬよう、まずは残りの学生生活に励みたいと思う。

最後になりますが、引率の伊藤先生、安島さん、ともに研修に参加した学生の皆さん、現地で出会ったすべての人びと、快く送り出してくれた両親に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

新たな発見 —ベトナムで出会った大切な友人を通じて—

森田 未紀

私がベトナム短期語学研修に参加しようと思ったのは、昔から留学してみたいという夢があり、ずっと叶えられないでいたからである。元々異文化交流や国際関係に興味があり、以前から留学してみたいという気持ちがあったのだが、なかなか思い切れないでいた。また、大学生の春休みは一年の中で最も長い休暇であり、学生生活も残り半分を迎えるにあたって、この春休みに普段はできない何かに挑戦してみたいと思っていた。そんな時、「ベトナム語学研修の旅」の情報を耳にし、これだと思った。アジア圏内ということもあって、費用や時差を考慮しても割と手軽に参加できそうだったのも惹かれた根拠である。

ベトナム語の授業で苦労したことは、先生が話す英語の説明を理解することだった。しばらく英語に触れていなかったのも、説明が理解できないことも多かった。授業後の復習で、伊藤先生や安島さんにバックアップしていただいたことはとてもありがたかった。ベトナム語で難しいと思ったのは、やはり発音であった。日本語にはない音もあって、それらしく発音してみても正確には伝わらないことに難しさを感じた。発音の仕方に注意を研いでいると、声調の存在は後回しになってしまった。でも、発音は同じでも声調が異なると意味が異なる単語に聞こえるから声調を意識することは重要だというアドバイスをもらってからは、ただ発音するだけでなく、声調も意識するようにした。テストでも声調をしっかりと意識することで好成績を取ることができた。

ベトナム人の友達の印象は、とにかく明るくて素直で豊かな心の持ち主だと感じた。ホームステイ先のバディやその友達は、私にベトナムの色々なことを教えてくれた。これはフエの名物料理だと言って教えてくれた「バイン・ベオ」を食べに連れて行ってくれたり、フエの人で知らない人はいないという阮朝王宮やティエンムー寺に連れて行ってくれたりした。私のバディとその友達は、まだ1年生というのもあって流暢に日本語が話せるわけではなかった。それでも自分達の知っている日本語で、寺の説明をしてくれたり、花の名前を教えてくれたり、とにかくベトナムの色々なことを教えてくれて、私はとても嬉しく

て胸が熱くなった。また、私にベトナム語の簡単な単語を教えてくれて、動画を撮りながら一緒に練習して覚えた時間もとても楽しかった。もっとたくさんのベトナム単語に触れてベトナムの友達とベトナム語で話してみたいと思った。

私は、この留学に参加すると決めても、特段ベトナム語を話せるようになりたいとは思っていなかった。将来使う機会はないだろうし、英語や中国語のように話せておいた方が国際人として通用する公用語ではないだろうという浅はかな考えを抱いていた。でも、ベトナム語で簡単な自己紹介を話せるようになったり、ベトナム人の友達から簡単な単語を覚えてもらったりするうちに、自然ともっとベトナム語を話せるようになりたいと思った。将来ベトナム語を使う職に就くわけではないし、普段の生活でベトナム語を使うこともないけれど、ベトナムに来て、ただただもっとベトナム語を話せるようになりたいと思ったのは自分でも想像していなかった気持ちである。それは恐らく、ベトナムで大切な友達に出会うことができたからである。私は、よく今自分のしていることは何か意味があることかと利己的に考える傾向がある。時間に追われながら日々生活していると効率の良さを第一に考えるからである。でも、将来のためという思いではなく衝動的に、何かをしてみたい、何かを勉強してみたいという気持ちを感じることができた。ベトナム語に関心がなかった私を、そのような気持ちに奮起させてくれたベトナムという国は、私にとって生涯忘れることのできない国になった。



ある日の授業で、何人かのベトナム人を尋ねて、プロフィールを聞いてメモしてくるという宿題が課された。日本だったら、見知らぬ人に名前を聞かれても答えてはいけないと大人から教えられているのが普通であるが、ベトナムでは、みんな普通に答えてくれるから大丈夫だよと聞いて国が違うということはこういうことなのかと思った。実際、ベトナムの人たちはみんな私の質問に答えてくれて、気を張らずに初めて会った人とこんなに簡単に交流できるのも日本にはないところで、それもまたいいなと思った。

車いすで日本語を教えているリエン先生の日本語教室では、たくさんの人と交流することができた。リエン先生の日本語教室には小学生から、大学生まで幅広い年代の人が勉強していた。彼らは、覚えた日本語を積極的に使おうとしていた。私の隣に座った小学生の女の子は、とても上手な日本語ですぐに私に話しかけてくれた。漢字を練習しているノートもを見せてくれた。みんなフレンドリーですぐに仲良くなれた。暇な時に、遊びに行ったりもして多くの楽しい時間を過ごしことができた。

ホーチミンでは、ベトナム戦争時の遺産であるクチトンネルに行った。実際にトンネルの中を潜ってみたが、思うような身動きはできず、体をかがませないと歩けないほどの高さであった。トンネルというだけあって距離は長いので、一度中に入ると外に出るのも一苦勞である。この暗いトンネルに何人もの人が一緒に身を寄せ合いながら、必死に大砲などから逃れていたと思うと、胸が痛くなり戦争の愚かさや、命の儚さなど考えさせられることは多くあった。

また戦争証跡博物館では、戦争体験者であるルーさんから実際に話を聞いたり、枯葉剤の影響を受けた人や戦争の経過を追った写真の展示を見学したりした。ルーさんは拷問されていた当時の話しをしてくれた。展示では、枯葉剤の影響を受けた多くの人の写真をはっきりと見たのは初めてで、言葉が出なかった。この残虐な姿にさせたのは、同じ人間であることを世界中の人が重く認識すべきであると思った。



今回の留学では、フエとホーチミンという二つの市を訪れることができたのがよかったと思った。この二つの都市の印象は異なるものであったため、どちらか一つの市に行っただけでは、ベトナムという国全体の印象が一つの市に対する印象だけのものになりかねないと思うからである。二つの市を訪れることで、ベトナムという国を広く知ることができ、そのような偏った印象を抱くことを回避できると思った。しかし、広く市を移動するという事は飛行機で移動したりと体力や時間を消費するため、それ以上の市を移動していたら厳しかったと思うので、二週間という期間を考えても二つの市を移動するというのが適切だと感じた。

この「ベトナム短期語学研修の旅」では、今まで無知であったベトナム語に触れ、そして多くの場所や人との出会いがあり、二週間とは思えないほど充実したものであった。また、留学や就職など夢や目標を日本で叶えたいと思っているベトナム人が多いと分かり、日本人として誇りに思ったし日本がさらに好きになった。この留学に参加したことで、世界の見方が変わり、物事を多角的に見る力を養うことができた。これからの人生を一味も二味も豊かにすることができるこのベトナム留学に、今後も多くの学生が参加してくれたら嬉しいと思った。最後に私たちを全力でサポートし、引率して下さった伊藤先生、安島さん、その他関与して下さいました方々に感謝しています。ありがとうございました。

二週間のベトナムで感じたこと —「ベトナム短期語学研修の旅」に参加して—

鈴木 美緒

1. この旅に参加したきっかけ

この「ベトナム短期語学研修の旅」に参加したのは、大学二年生の春休みでした。私は人文学部・社会科学科・経済経営コースに所属しており、三年生からアジア経済を中心に学ぶことが決まっていました。そのため、アジア地域に興味があり、その中でも近年経済発展の著しい新興国に強い関心がありました。新興国の中でも人口約9250万人、国土約33万平方キロメートルのベトナムの経済はここ数年、ASEAN諸国のうち比較的経済発展の進んだASEAN4（マレーシア・タイ・フィリピン・インドネシア）を凌ぐ成長率を記録しており、大きく発展しています。

今回のこの「ベトナム短期語学研修の旅」では、ベトナム語を学ぶプログラム以外にも、現地の日本語を学ぶ大学生との交流会や、ホームステイ、市内観光など充実した様々な活動に参加することが出来る点に、大きな魅力を感じました。昨年度、同じくこの研修に参加した学生からも話を聞き、実際にベトナムを訪れて二週間滞在しながら、経済発展や経済成長の様子を多くのプログラムを通して、様々な角度から感じる事が出来ると考え、研修への参加を決めました。

2. ベトナム語を学んでみて

「ベトナム短期語学研修の旅」というタイトルからもわかるように今回の研修のメインの活動が、ベトナム語を学ぶということでした。今までベトナム語を学んだ経験もなく、また事前に一度行われた、ベトナム語の学習会にも参加することが出来なかったため、フェでの授業で初めて、ベトナム語を勉強しました。今までに未習外国語を履修したことがなかったため、英語以外の語学を学ぶのは初めての経験でした。ベトナム語の特徴は、なんとと言っても六つもある声調で、同じ綴り、同じ音でも、アクセントによって全く違う意味になってしまうことに、はじめはとても戸惑いました。日本語を普段話している上で、

声調を意識することはなく、アクセントをここまで意識しての語学学習は初めてでした。

日本語とは全く異なると思っていたベトナム語でしたが、勉強を進めていくにつれて共通点を見つけていくことも出来ました。ベトナム語では、「オン」(おじいさん)、「バー」(おばあさん)、「アン」(お兄さん)、「チー」(お姉さん)、「エム」(年下の男の子・女の子)といったように、相手に対する呼び名を自分より年上なのか、年下なのかによって細かく区別し、会話の中でもこれらの使い分けはとても重要になってきます。ベトナム人の約八割が仏教を信仰していることが関係しているのか、日本と同じように目上の人を敬う文化があるということに気がつくことが出来ました。言葉を学ぶということは、単にその国の言葉を理解することが出来るようになるだけでなく、言葉を通してその国の文化や、歴史、その国の人々の考え方や宗教観などにも触れることが出来るのだと、身を持って感じ、語学を学ぶことの面白さや奥深さを知ることが出来ました。ベトナム語を今後の人生で使う機会はほぼないであろうし、正直、四日間のみでの授業では得られるモノも、身につくモノも少ないのではと考えていましたが、この四日間で感じたことは今後、私の中でとても重要になってくると感じます。





3. 今回の研修で感じたこと

「ベトナム短期語学研修の旅」の二週間は毎日とても充実していて、毎晩ベットに入るところにはクタクタでしたが、今こうして振り返ってみると、とても早く過ぎてしまった様にも感じられます。

この研修に参加した大きな理由の一つである、ベトナムの経済発展の様子を知るという点については、二週間の滞在で様々な面から実感することが出来ました。車やバイクの多さにはなかなか慣れることが出来ずに、滞在の最終日でさえも横断歩道のない道路を一人で渡ることは出来ませんでしたし、クラクションが鳴るたびにびっくり、ドキドキしていました。一方でどこに行ってもWi-Fiが使える環境にあるフエやホーチミンは、日本よりはるかに便利だなと感じました。街中には日本のような大きなビルもたくさんあり、また、いたるところに人がいて、特に子供や若者が多く、活気がある印象を受けました。一方で食べ物、交通費などすべてにおいて安い物価や、繁華街や大通りから一本道を外れたところの街の様子が大きく変わるさま、マナーの悪さや衛生面などからはまだまだ発展途中である様子も垣間見ることが出来ました。文献を読んだり、人の話を聞いたりすることももちろん大切ですが、実際に自分の目で見たり、聞いたり、感じたりしなければ知るこ

との出来ないこともあるのだということがわかりました。

また今回の研修のプログラムの一つであったホームステイに参加して、自分の将来に対する考え方や心持に対しての変化を、感じることができました。私は海外に興味があり、将来は国際関係の仕事に就ければと考えています。そのためにも、英語習得は何よりも大切だと考えていました。今回のホームステイ先では、ホストファミリーは日本語はもちろん、英語も話せず、また私もベトナム語が話せないため、一泊二日のホームステイは研修のなかで一番不安に感じていました。しかし実際にホームステイに参加してみると、ホストファミリーが温かく迎えてくれ、一緒にご飯を食べ、身振り手振りを交えて一生懸命に話かけてくれたり、私達のことを理解してくれようとしてくれました。言葉が分からなければ、相手の話が理解できなければ、心を通わせることは出来ないと今までずっと思っていました。だからこそ外国人と交流するには英語が話せることが必要不可欠だと思っていました。しかし、今回のホームステイではそんな、私の中での常識が覆されました。今後、このような海外での研修に参加したり、将来に向けて海外での活動をより積極的に行っていきたいと考えていますが、一番大切なことはどれだけ英語が話せるのかということではないということを知ることが出来ました。近年、さらにグローバル化が進み、英語は世界の共通語であるかのように感じるが多々ありましたが、国際社会において、最も大切なことは何かということ、身を持って学ぶことが出来ました。本当に貴重な体験をすることが出来たと思います。

最後にこの「ベトナム短期語学研修の旅」に関わって下さった、教職員の方々、ベトナム人学生、すべての方へ感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。

憧れのベトナム生活を体験してみて

鮭川 南

1. この旅に参加したきっかけ

私は以前からベトナムという国に憧れを抱いていました。ベトナムにはどのような歴史があり、現在ではどのような雰囲気なのか、そのような基本的な知識は全くなく、近年経済成長が著しい国という漠然とした知識しかありませんでした。おいしい料理、明るい性格の人々というベトナムの固定観念が憧れへとつながっていたのかもしれませんが。その憧れが次第に、現地へ行って本場のベトナム料理が食べたい、そして実際にベトナム人と交流し仲良くなりたい、と強く思うようになりました。

そして私はベトナムへただ単に旅行という形では行きたくないという信念がありました。ベトナムは戦争後の歴史が浅く、未だ戦争の傷跡が癒えていない国であると私は考えていたため、表面の明るい部分だけでなく裏側の暗い部分も自分の目で見て感じ、異国の戦争を学びたいと考えていたためです。

そのような中、伊藤先生のベトナム語学研修について知り、おいしい料理を味わう・ベトナムの人々と交流する・戦争について学ぶという私の欲望をすべてかなえてくれるのはこの研修しかない、と考えたため、今回の研修への参加を決意しました。

2. ベトナム語を学んでみて

ベトナム語というのは、あまり日本で見る機会がなかったため、アルファベットを使用することは知っていましたが、どのように発音するのか、どのような文節なのかまったく知りませんでした。さらに声調がいくつがあることは事前学習会で学んでいましたが、実際に会話しているのを聞いたこともなかったため、声調というものがどのようなことを指すのかもよく分かりませんでした。

そして実際にベトナム語を学び、聞いていくにつれて、日本語とはまったく異なる言語であることを理解していきました。

まず1つ目は文節です。中国語と英語・日本語と韓国語のように、私は今までこの2種

類の文節しか学んでこなかったため、言語はこの2つの文節が主であるという大変歪んだ固定観念がありました。しかしながらベトナム語は、疑問文において「何」に当たる言葉が最後に来たり、「私」に当たる言葉が最初ではなく文中に来たりと、授業開始時はまったくの未知の言語に戸惑うばかりでした。

しかし学んでいくにつれて、英語と似た文節があったり、be動詞のような単語を使用していたりと、他の言語とは文節が完全に異なるわけではないということを理解することができました。

2つ目は私が一番苦労した声調です。それぞれの単語の上部にはさまざまな声調と呼ばれるマークが付いており、その声調に従って発音するという、日本人の私にとって大変困難なことでした。さらに私たちが学んでいた地のフエでは訛りがあると先生がおっしゃっており、ハノイではもっと強く声調を意識した発音をすると聞いて、フエ訛りでの発音でも困難であるのに、ハノイではさらに困難であるのかと気が遠くなりました。

そして自分はしっかりと発音していると思っていますが、先生やベトナム人の友人に何度も直されてしまったりと、声調は最後まで苦労しました。

言語は書くことも重要ですが、一番重要なのは耳で聞き、しっかりと発音をすることであったと分かりました。

3. ベトナムの学生との交流を通して

ベトナム語も英語もままならない私は、ベトナムの学生との交流にとっても緊張していました。そして私は文化交流係であり、最初に70人あまりのベトナム学生たちの前でプレゼンをしなくてはならなかったため、恐怖心もありました。プレゼンの意味を理解できなかつたらどうしよう、日本の遊びが楽しくなかつたらどうしよう、と不安は募るばかりでした。



しかしながら学生たちはその不安を一気に消し去ってくれたのです。私の声を一生懸命に聞き、意味を理解するように努め、時には歓声を上げ、私たちのプレゼンを心から楽しんでくれている姿がそこにはありました。フエ大学の学生だけでなく、高校生にプレゼンしたときも、同じ反応を示してくれました。



授業が終わった後にベトナムの学生と遊ぶ時も、いつも笑顔で明るく、日本語をたくさん話してくれ、私が少しでもフエを楽しめるようにさまざまところへ案内し、美味しい大衆食堂へ連れて行ってくれました。

2週間という短い期間でしたが、ベトナムの方々の温かさや人柄の良さを十分に理解することができました。

そしてベトナムの学生と話したり、街並みを見ていてもう1つ感じたことがあります。それはベトナム戦争の痕跡がまったく見当たらないということです。学生たちは戦争についてあまり知らないのか、あるいは私たちに気を遣って話さないのかは分かりませんが、一度も戦争に関する話題は出ませんでした。観光地に私を連れて行っては、その歴史や知識について多く説明してくれる彼らに、私から戦争について問いかけていればよかったと今になって後悔しています。違う国で生まれた私たちと同じ世代の人たちは戦争についてどう考えているのか、またベトナムの学生との交流する機会があるのならば、この疑問を問いかけたいです。

4. 今回のベトナム滞在で学んだこと／今後の自分に活かせる点

ベトナムに来て学んだことは、外国人に対する偏見はとても愚かであるということです。

最後のベトナム文化についての講義の際、先生は「日本人は外国人に対して閉鎖的か」という質問を私たちに問いかけました。私はその質問に対し「完全には言えないが、現在でも閉鎖的である」と答えるだろうと思います。英語なら理解できる人が多くなってきたため、言葉の壁を意識しないで会話することが可能ですが、もしまったくの未知の言語で話をされたら、多くの人が知らぬふりをして通り過ぎてしまうでしょう。

私がこの研修を心から楽しみ、有意義な時間とすることができたのは、ベトナム語が堪能な先生方がいて、日本語が理解できるベトナム人学生がいて、そしていつも日本人の学生が私の周りにいるという恵まれた状況であったからこそ、ベトナム語が話せなくても、私はベトナムで何の恐怖心もなく解放的でいられたのだと思います。

しかしベトナムの方たちは、私が日本人と分かると、何が言いたいのかを一生懸命理解

するように努め、目を合わせるとニコっと笑い、自分が知っている日本語を使って、言葉の壁を簡単に乗り越えてしまいました。

そして授業で「知らない人に名前・電話番号・年齢などを聞く」という宿題が出された時、すごくベトナムらしい宿題であると思いました。日本で同様のことをしたら、「プライバシー」「個人情報の保護」

という言葉がすぐに出てきて、多くの日本人がこの宿題に対して嫌悪感を覚え、誰も答えてくれないでしょう。「外国人」「他人」という認識が浅いベトナムだからこそ可能な宿題であったのだと考えます。

文化の違いにとまどいカルチャーショックを何度か経験しましたが、そのカルチャーショックを乗り越えて、異国の文化を吸収していく楽しさというものを経験することもできました。

ベトナム人を詳しく見つめることで、同時に日本人を客観的に見つめ直す機会ともなりました。そしてベトナムの方々の尊敬する部分、日本人が直すべき、あるいは良い部分も多く理解しよく考えることができました。ベトナムで学んで日本に帰ってきた今こそ、外国人に対する壁を乗り越えて、恐怖心を無くしていきたいです。

5. 今後のこの企画への提言

慣れない環境の中、予定が詰まっており、疲れがたまりやすい生活であったと感じました。滞在中、休息する時間を少しながらも入れた方がいいと思います。



ベトナムで過ごした忘れられない時間

篠原 結衣

〈ホームステイ〉

私は日本人2人で1人のベトナム人学生の家ホームステイさせてもらった。移動の際に何度も通った通りの両サイドにある家々は古そうで、きれいとは言えない家がほとんどであったため、心構えをして行ったが、私のホームステイ先はとてもきれいだった。一番衝撃的だったのは、玄関のドアがないことである。家の中と外を隔てるものは目の粗い門だけで、空気は中も外も同じだった。バディに聞いてみると、ドアがある家もあるが、ない家も珍しくはないと教えてくれ、日本との違いに驚いた。私たちがホームステイしたときはまだ小雨が降っていて寒い日だったので、外を歩くときと同じ上着を着て夕食を食べた。夕食はフエの有名な料理を、お母さんとお姉さんとバディが作ってくれた。どれもとてもおいしく、日本の味に近いものもたくさんあった。ベトナム語が全く分からない私たちと会話できるのは日本語を勉強しているバディだけであった。しかし、ホストファミリーは言葉が通じないからと冷たくすることはなく、たくさんご飯を食べるようにと気を遣ってくれたり、バディを介して様々な話をしたりして、とても温かく私たちを迎え、もてなしてくれた。

2日目は朝からバイクに乗って屋台に朝ごはんを食べに行った。ベトナム人のほとんどは朝ごはんを外で済ませると聞いていたので、ベトナムスタイルの生活ができてとても嬉しかった。そのあと、王宮や有名なお寺、市場にも連れて行ってくれた。2日間という短い時間であったが、バディやその友達、ホストファミリーとも仲良くなることができた。ベトナムに来て2日目でホームステイだったため、バディが日本語学科の学生とは言っても私たちはベトナム語を全く分からない状態で訪問したのがとても不安



だった。日本人2人でのホームステイだと困ったときなどに相談できるためとても心強かった、とは言っても、日本人2人だけで会話していたわけではなく、本当に理想的なホームステイができたと思っている。ホストファミリーが言ってくれて私も感じたが、1日じゃ足りない、もっと一緒に過ごしたいと思った。

〈学校と寮での生活〉

フエ外国語大学では挨拶すら分からない初歩の初歩からベトナム語をスタートし、約1週間、1日6~7時間の学習、すべて英語での説明、という条件での勉強はラクではなかった。初歩であるため、難易度は高くないが覚えることがたくさんあった。文法や声調はもちろん、数字や物の名前など、毎日本当にたくさんを学んだ。たくさん覚えるのはラクではなかったが、新しいことがどんどん知れる、少しずつでも身に付けていけるの



はとても楽しかった。授業の中で、物の名前や国名などを覚えるときにやったゲームが私の中でとても印象に残っている。英語とはあまり似た部分がなく、日本語と似ているのもごくわずかで覚えるのが大変だと思っていたが、チーム対抗でのゲームをやったり、記憶力と関連させて覚えたりとベトナム語に不慣れな私でも楽しみながら勉強することができたのは Trang 先生のおかげでありとても感謝している。また、他人の名前や年齢、電話番号まで聞いてくるという宿題もベトナムだからこそできるものであり、とても印象的である。日本ではできないことができ、これも貴重な体験の一つであったと思う。

ベトナム語で特に難しかったのは声調である。日本語を話しているときはあまり意識しないものであり、また声調によって意味が異なってしまうため正確なアクセントをつけた発音をしなければならないのが一番苦労した点である。1日の授業の中でも、少し時間が経つとどんな声調だったか忘れてしまい何度もやり直しをした。授業以外のときもベトナム人学生に正しいアクセントを教えてもらった。何度もやっていくうちに分かっていき、上手と褒められると素直に嬉しかった。

14日間あったこの旅のうち、10日間をフエ外国語大学の寮で過ごした。3~4人で1部

屋、2段ベッド、シャワーとトイレはほぼ外、という日本では経験したことない条件での生活にとっても驚いた。シャワーのお湯の量には制限があったため、最後に入る人の分まで考えて、こまめに止めたりなるべく使わないようにする、というのは慣れないことで初めは大変だったが、段々と慣れていき、すると、普段自分がどれだけ無駄遣いしているかを考えさせられた。また、トイレではトイレトペーパーが流せないため自分たちでビニール袋を設置、水もちろん自動では流れないので、自分でバケツに水を溜め桶で流すのが通常であった。シャワー用、トイレ用のスリッパを決めたり、より快適に過ごすために必要なアイテムを部屋のみんなで考えて買い足したりと協力しながら生活できたと感じている。初めは清潔そうではないから足元だけに使っていた毛布を、日が経つにつれ首までかけたり、毛布を枕代わりにして昼寝をしたり、段々と慣れていった。帰国後家族にこの話をしたら、「慣れって怖いね」と言っていた。確かにそうかもしれないが、しかし、私はベトナムの生活に慣れていけることがとても嬉しかった。部屋の中ではあまり電波が強くないため、Wi-Fiを求めて多くのベトナム人学生が外の階段やベンチでパソコンや携帯を使っていた。日本はWi-Fiがなくても携帯が使えるため、日本では見ない光景だと思った。私は、寮での個人スペースはベッドの上だけと聞いていた。確かに机は1つしかなかったため、勉強したり、何かしたりするのは基本ベッドの上で、靴で歩いているため床に座ることなどはできなかったが、4人のキャリーバッグを十分に広げられるくらいの広さはある、私の想像よりは広くいい部屋だと思った。

〈友達との時間〉



私がこの旅に参加して本当に良かったと思えるのはこの時間があったからであろう。大学には午前も午後も行っていたが、それ以外の空き時間や、大学がない日もほぼ毎日ずっと遊んでいたように思う。昼食・夕食を一緒に食べたり、ホームパーティーに呼んでくれたり、カフェに連れて行ってくれたり、買い物に付き合ってくれたり本当にたくさんのかたちと一緒にやって日に日に仲良くなれたと思

う。いつも一緒にいて、たくさん笑ったり楽しいことをしたり色々な話をしたりして、毎日本当に楽しい時間を過ごした。その中でも特に思い出に残っているのは、私たちのテスト前日にカラオケと飲み会に行ったこと、大学からは少し離れているが、海に行ったことである。



私が仲良くなったベトナム人学生5人組はよくカラオケに行くらしく、一緒に行こうと誘ってくれた。私はカラオケが苦手でもあまり行ったことがなかった。しかし、このとき2時間ほどカラオケをしていたがあとという間であった。私たちがいるからか日本語の歌もたくさん歌ってくれて、踊りながら歌ってくれたり、みんなで踊ったりと騒ぎながら楽しく過ごした。その後は夕食を食べに行き、フエのビールを一緒に飲んだりした。翌日テストがあることを伝えると、声調が合っているか確認してくれたり、単語の覚え方を教えてくれたりした。そのとき、聞いて覚えられるようにと私の携帯に吹き込んでくれた声には賑やかな周囲の雰囲気も録音されていて、私の大切な思い出である。別の日にはタクシーで20分くらいかかる海に行った。浜辺でフエの有名なものを食べたり、長縄跳びをして遊んだり、ベトナムのゲームをして遊んだりした。長縄跳びとベトナムのゲームをして負けたチームは罰ゲームをして、思い出を毎日たくさん作った。だから、お別れの時は本当に悲しかった。毎日、明日は何する、どこ行くと話していたのにそれができなくなると思うととても辛かった。出発前はホームシックになるのではと心配していたが、そんなことは全くなく、別れが辛くなるほどたくさんの思い出を作り楽しい時間を過ごしてくれた友達に出会えたことに感謝したい。帰国後、5人のうちのほとんどが日本に留学することが決まったと聞き、今はまた会えることが楽しみである。

〈ベトナム研修から感じたこと、今後生かしたいこと〉

私は海外にとっても興味があり、忙しいと言われている3年生になる前に海外に行こうと決めていた。しかし、日本はアジアで、同じアジア圏には全くと言っていいほど興味がなく、自分がベトナムに行くとは思ってもみなかった。新しい発見をするにはもっと遠くに行ってみるべきだと思い込んでいた。そんなことは全くない、と今なら自信を持って言え



る。今回の2週間の研修ではフェ
外国語大学に通うことでベトナム
語を勉強することができ、日本語
が分かる多くのベトナム人と交流
することができた。私がたくさん
の人と交流し、素敵な思い出をた
くさん作ることができたのは、ベ
トナム人学生の皆さんがとても積
極的に触れ合おうとしてくれたか
らだと思う。私たちを見ると、「日

本の方ですか？」と声を掛けてくれて、色々な話をしようとしてくれた。その姿をみて、私ももっと積極的になろうと思えた。言葉が通じにくいこともあったが、一生懸命日本語を話そうとしてくれているのだから、私もゆっくり話したり、大きな動作で表現したりと言葉以外の交流の仕方もあることを生活しているうちに気づいていった。異国の人との交流に限らず、同じ国の人とでも積極的な姿勢で関わることは大切であり、今後の私の生活でも生かしていきたい。

ベトナム訪問中にベトナム戦争の名残であるクチトンネルを見に行ったり、博物館に行って写真や遺跡を見たりする機会をいただいたが、それらは想像以上に痛々しいものばかりであった。私は以前、日本の広島でも資料館を訪れ、戦争の恐ろしさを感じた。しかし、ベトナム戦争は第二次世界大戦後であったにもかかわらず、無残さは増しているように感じた。写真などを見て、私は目を背けたいと思ったが、それらは過去に苦しんでいた人たちの実際の姿で、今もさらなる戦争や紛争で苦しんでいる人がいることを決して忘れてはならない、目を背けてはいけないと思った。

日本とベトナムでは生活、国の雰囲気、人と人の距離、異なることがたくさんあったがどちらの国にも魅力的な点はたくさんあった。行ってみないと、体験してみないとわからないことがたくさんあり、それらを感じることができて本当に良かった。忘れられない、宝物のような時間をすごすことができた。伊藤先生や安島さん、2週間一緒に過ごした茨城大学のみなさん、関わってくださったすべての方に感謝したいです。本当にありがとうございました。

ベトナムでの思い出 —長かったような短かったような2週間—

引地 菜緒子

1. 参加したきっかけ

学科の授業で、ベトナム旅行によく行くという先生が、ベトナム研修の説明会をやっていることを教えてくれた。私は大学生のうちに一度は海外旅行へ行ってみたいと思っていたが、なかなか行けなかったためとりあえずこの説明会に参加してみようと思った。行ったら楽しいよという説明もあったし、知っている先輩が2人無事に行って帰ってきているのだから大丈夫だろうと思ったため、ベトナム研修に参加しようと決めた。海外に行ったことがないため大人数で行くことは心強かったし、費用もあまりかからないので親にも反対されなかった。

2. ホームステイでの思い出

ベトナムに行って2日目にはホームステイだった。ベトナム語が「こんにちは」ぐらいしか分からない状態でベトナムの家庭にお世話になることがとても不安だった。しかし、学生の子とは日本語で少し話ができるし、夜ごはんやプリン屋さんや買い物、名物の橋など色々なところに連れて行ってくれて2日間とても楽しい時間を過ごすことができた。ホームステイ先のお母さんは日本語は分からないがずっと笑顔で温かく接して下さって安心した。しかしやはりベトナム人学生とお互い言いたいことがうまく伝えられずもどかしい思いをすることもあったし、感謝の気持ちをもっときちんと伝えたいと思うこともあった。言葉で伝えていることは多いのだなということに気づいた。また、ホームステイの家に行くまでの交通手段で初めてバイクに乗せてもらった。バイクは怖いものだと思っていたが、風が気持ちよく少し距離がある所にもすいすい行くことができて楽しかった。



3. ベトナム語の授業を受けて

ベトナム語の発音は日本語と全然違って、難しかった。先生は一体どこから声が出ているんだ？と思うぐらい日本語を話している時には聞かない発音もあった。声調があるということも日本語とは違い、難しかった。一方で、漢字がもとになっている言葉もあり日本語と発音が似ている単語がいくつもあって面白かった。ベトナム語は日本語とは全く違う言語なのだと思っていたので似た言葉があることに驚いた。ある日宿題で、ベトナム語で5人の人に名前や職業、電話番号などを明日までに聞いてきてくださいと言われたことがあった。そんなこと見知らぬ外国人に聞かれて、教えてくれる人なんているのか？と思ったが、実際に大学内にいた学生に聞いてみたら電話番号まであっさり教えてくれた。私は日本でそんなことを聞かれたら名前ぐらいは教えても電話番号や詳しい情報は絶対に教えないと思う。「茨城大学に日本語を勉強しに来ました」と言われても教えないと思う。

あるベトナムの人が、「ベトナム人はあまり自分のことを隠さないでなんでも話す」と言っていた。電話番号などを教えてくれるのもこういう傾向があるからだろうか。私は普段人と話をする時、変に思われたら嫌だなと考えてとっさに自分の思ったことを隠してしまうことがある。そのため、隠さずになんでも話せるということがうらやましく思えた。なんでもかんでも話してしまうことは日本では危険なのかもしれないが、別に隠さなくてもいいことはなんでも話してしまえるようになればいいなと考えた。

4. 生活について



食事に関して気をつかうことが多く、早く日本に帰って色々なことを気にせずごはんを食べたいと思うこともあった。しかし食事はどれもおいしかった。辛いものが多く旅の中盤の頃で胃が疲れたと感じた。

去年の報告書を見たりベトナムの平均気温を聞いたりして、暑いんだろうと考えて行ったらフエはちょうど天気が悪い日が続いていて気温が低く、寒かった。家から空港に行くまでの間しか着ないだろうと思っていたダウンのジャンパーを結局毎日のように着ていた。長袖長ズボンは2枚ずつ程度しかなかったし薄いものだったため持って行った服では足りず分厚いパーカーと足首まで隠れる長さのズボンを買った。行く前に気温15℃ぐらいということは分かっていたので、実際その気温の時にどの程度厚着する必要があるのかよく調べて服を用意すべきだったと思った。

朝晩の健康チェックについて、チェック表には頭痛、腹痛などの項目について「ある・ない」の2つしか選択肢がなかったが「ややある」という選択肢があると体調不良の出始めを見過ごさずしっかり様子を見る事ができるのではないかと考えた。

寮生活の途中で、シャワーとトイレの電気がつかなくなってしまった。真っ暗になってしまったため直るまで部屋を変えてもらおうかという話があった。しかし伊藤先生が懐中電灯を買ってきてくださり、つけてみると明るく、ちょうど懐中電灯をぴったり設置できるフックがあったのでそのまま生活することができた。困ったことが起こっても、工夫次第でなんとかすることもできるのだと学んだ。



文化の違いから学んだ事 —ベトナムという国、そしてそこで暮らす人々—

高橋 遥

1. この旅に参加したきっかけ

私はこの研修に参加するまで海外に行ったことはありませんでした。興味がなかった訳ではなく、友達が海外に行った話を聞くととても羨ましく思っていました。ただきっかけをつかめずにいました。そんな中知ったのがこのベトナム短期語学研修です。話だけでも聞こうと説明会に足を運びました。伊藤先生と安島さんから前年度の研修の様子などを聞きました。それでもまだ参加を決めきれなかった私に伊藤先生と安島さんが背中を押してくださいました。「以前、研修に参加した生徒は帰国してからなにかしら新しいことを始めている」「あなたはこの説明会に来ている。体はもう動き出している。あとは参加を決める心だけだ」この言葉を聞いて参加することを決めました。私は将来就きたい仕事が決まっていなく、大学で何をしたいのか分からずにいました。そのためこの旅で何かつかみたいと思って参加しました。この時は全くベトナムにこだわっていた訳ではありませんでした。しかし、今ではベトナムに行くこの研修に参加して良かったと思っています。

2. ベトナム語を学んでみて

ベトナム語はこの研修に参加するまで未知のものでした。日本での事前学習会で初めて声調が6つあることを知りました。私は1年間第二外国語として中国語を勉強してきたので、声調にはいくらか慣れていました。しかし現地で一日目の授業を受けて正直不安になりました。6つの声調を実際に自分の声を使って出すことはこんなにも難しいのか。それ以前にベトナム語が読めない。アルファベット表記であるが発音が英語と異なる。母音が11もある。始めは苦しかったベトナム語の勉強でした。しかし、チャン先生のある課題で楽しいものになりました。それは5人のベトナム人に習いたてのベトナム語で名前や職業などの質問をするというものでした。初めは緊張しましたが、片言のベトナム語で質問するとみんなニコニコしながら快く答えてくれました。突然話しかけてきた外国人を受け

入れてくれて嬉しく思いました。またそんなみんなと友達になりたいと思い、ベトナム語をもっと話せるようになりたいと思いました。授業期間はテストのための勉強になりがちでしたが、テストが終わった後も初めて会うベトナム人の友達にベトナム語で自己紹介をしたり、お店の店員にあいさつをしたり楽しくベトナム語の練習が出来ました。少しでもベトナム語を話せるようになったことでベトナム人との距離が縮んだ、そんな気がしました。言葉がすべてではないけれど、気持ちを言葉にすることでより他者に自分を理解してもらえらると思えます。ベトナム語の勉強を通して、「言葉」の役割を自分なりに理解できました。



3. ベトナムの学生との交流を通して

私が今回の旅で一番印象に残っていることは、ベトナム人学生との交流です。私は文化交流係でした。交流会でどんなことをしたら盛り上がるだろうかと考えている時に伊藤先生がベトナム人学生はダンスでもゲームでもすごく盛り上がってくれるとおっしゃっていました。そこで思い切ってダンスを覚えてもらって一緒に踊ることにしました。しかし日本の学生に同じことをしたら恥ずかしがると思ったので、本当にベトナムの学生は盛り上がるだろうかという不安はありました。ベトナム人の友達がたくさん出来て、彼女たちと濃い時間を共有した今ではそんな心配はいらなかったと言えます。ベトナム人は

本当に人懐っこくて愛想が良くて明るいです。目をキラキラさせて一緒にヘビーローテーションを踊ってくれた彼らの顔が今でも忘れられません。ホームステイでお世話になったリンさんをきっかけにフエに滞在した1週間余りで本当にたくさんの友達が出来ました。中でも特に多くの時間を一緒に過ごした5人の友達は別れるのが本当につらくなるほど心の距離が近くなりました。日本で彼女たちより多くの時間を共有しているのに心の距離が遠い人はたくさんいます。日本人の大半は自他の境界がはっきりしていますが、ベトナム人は日本人ほどはっきりしていないと思いました。日本人ほど「他人」という意識は強くないと思います。「はじめまして」を言った瞬間から手を繋いで歩くような、全く壁を作らないベトナム人と接していて気づいたことがありました。私は普段無意識に人との間に壁を作っていました。日本では他人との付き合いの中で常に礼儀が必要です。大学生になってより知らない人と接する機会が多くなってきた今、必要以上に身構えてしまい他人と接することに臆病になっていた私がありました。ベトナムでベトナム人の友達と接していたように日本で日本人の友達に接することは厳しい部分もあると思います。タテの関係もヨコの関係も考慮しなければなりません。しかし必要以上に自分から壁を作ることは止めようと思います。ベトナム人の友人が壁を作ることなく近づいてきてくれて本当に嬉しかったからです。あるベトナム人の友達が言うてくれました。「友達は始まったら終わることはない。ずっと友達」ベトナム人は本当に情の熱い素敵な人が多いと思いました。



4. 今回のベトナム滞在で学んだこと／今後の自分に活かせるような点

ベトナム人の友達が出来てから、何度も彼女たちにバイクでフエの街に連れて行ってもらいました。そんな中感じた事は、やはりベトナムは発展途上国であるということです。日本と決定的に異なると感じた事は衛生面についてです。屋内屋外に関わらず地面には紙くずや食べ残しなどの生ごみが捨ててありました。フエは南部ほどではなくとも気温が高いのでたくさんの虫がたかっていました。感染症などの病気が心配されます。お手洗いはまだまだ改善の余地があります。話を聞くと水洗トイレの家庭も中にはあるようです。しかし、観光客が多く訪れる寺院のお手洗いですら汚れが放置され中に入ることが出来ませんでした。またレストランで食事をする際に毎回と言っていいほどある光景を見ました。それはまだ小学校にもあがらない幼い子供がティッシュを差し出して客の目をじっと見つめているものでした。日本で見たことのない光景に驚いたのと同時に胸が痛くなりました。この子が成長した時にどんな子になるのだろうか。そう考えながら、友達のバイクに乗せてもらって、貧しい人達が暮らす家がある田舎の道を通ったことを思い出しました。鋭い目つきでこちらを睨む大人がいました。貧困はサイクルだと聞いたことがあります。親が貧しいと子も貧しい。貧しい暮らしを送る人々がいるという現実を自分の目で確かめることが出来たと同時に、この現実を知った以上自分に出来ることを考えてみたいと思っています。今回初めて海外に渡って、初めて自分が先進国において快適な暮らしの中で生きていることを実感しました。そしてそれが当たり前のことではないと気が付きました。まだまだ自分の中の当たり前な事が当たり前ではないという事がありそうです。社会心理学の「他者を通して自己を知る」という言葉の意味が理解出来たような気がします。

5. 今後のこの企画への提言

私は始めこの企画に参加するかとても迷いました。しかし今断言出来ます。私はこの企画に参加して本当に良かったです。企画に参加することを決断したことから帰国して今報告書を書いている全てのことが自分にとって何かしら考え行動するきっかけになっています。全てが初体験でした。誰でも初めてのことに不安はあります。不安は乗り越えて、自信に変わります。今私はこの企画に参加したことを誇りに思います。そしてこの体験を活かして次の形に変えようとしています。今回このような企画を準備して下さり全ての面においてサポートして下さった伊藤先生と安島さん、また支援して下さった両大学の方々に本当に感謝しています。今後もこのような企画を続けてほしいと心から願います。

初めての海外、初めてのベトナムを通して

栗林 朝美

1. この研修に参加したわけ

私は、今回のベトナム研修で初めての海外に行きました。以前から、海外に行ってみたい、自分の視野を広げたいと思っており、この研修があることを知った時に興味がわき、すぐに参加を決めました。しかし、申し込みをした途端に不安も感じました。それは、私が見知らぬ人だからです。言葉の分からない国に行ってたくさんの人と仲良くなれるだろうかという心配・自分の知らなかった世界を感じることが出来るという期待を抱きながら、研修が始まりました。

2. ベトナムに行ってみて

1) 街の様子

まずホーチミン経由でフエに着いて湿度・気温はもちろん、においが日本と違うと感じました。その他にも、バイクがとても多くクラクションが鳴り響いている・露店が多い・水洗トイレが少ない等がありました。

2) 人との交流

私は、ベトナム人とのコミュニケーションについての心配が一番大きかったのですが、それはベトナム人学生の距離の近さのおかげで少しずつ和らいでいきました。研修の短い期間の中で、バイクの後ろに乗せてもらって色々な場所を観光したり、日本で友達としていたようなたわいのない話をしたりとスッと入っていける安心感がありました。

また、ベトナム人は仲がいいほど「ありがとう」を使わないと知り、驚きました。私は仲が良い人にこそ相手を大事に思う「ありがとう」を使っていたと気づきました。

3) ベトナム語・授業について

ベトナム語には6つの声調があります。これまで声調を気にしたことのない私には、

難しくもあり興味深く楽しくもありました。授業はベトナム語を英語で教わるというものでした。苦手意識のある英語で教わるということで聞き逃さないようにと日本語での授業よりも集中していたと思います。その中で一番印象に残っていることは、宿題です。5人のベトナム人に習ったベトナム語を使って、名前・年齢・出身地・職業・職場・住所・電話番号を聞いてくるというものが課されました。私は自分が逆の立場だったら答えないだろうから聞いても断られてしまうだろうと憂鬱になりました。しかし聞いた人は皆答えてくれて嬉しくもありましたが、感覚の違いに驚きました。



3. 感じたこと・学んだこと

これらを通して、楽しい思い出とともに自分を見つめなおす機会でもあったと感じます。私は、多くの人とコミュニケーションをとりたいと思いながらも人との間に壁を作っていること・広い視野で物事を見たいと思いながらも自分の価値観で考えていることが多いこと・コミュニケーションをとるのに言語が不可欠なわけではないことを実感しました。

また、ベトナムを通して日本の良いところ、悪いところについて改めて考えることも出来ました。私は日本の伝統芸能、伝統工芸に興味があるのでさらに深めていきたいと考えています。今のこの気持ちを忘れずに、日本はもちろん海外についてもさらに学んでいきたいと思います。

さらに、今回の研修では先生や先輩など頼れる存在がいたことは大きかったと感じます。頼れる人がいることで少し余裕ができ、楽しめたと思うので、感謝とともにこれからは自分で自分の居場所を作っていきたいと感じています。

最後に、私は今回のベトナム研修に不安もありましたが、行ってみようという気持ちを大事にして参加をしました。そして2週間という短い期間の中でも行ってみなければ分からないことをたくさん経験することが出来ました。少しでも興味がある人はぜひ参加してほしいと思います。



「ベトナム短期語学研修の旅」レポート 2016年3月21日提出

ベトナムに上陸してきました☆ —未知なことがたくさん—

橋本 理沙

私はこの語学研修で初めてベトナムを訪れました。この語学研修は友人に誘われて説明会に参加したことがきっかけです。それまで私はベトナムに行くことを考えたこともありませんでした。しかし私は大学生の間に発展途上国と言われている国に行ってみたく思っていました。そこで今回この研修旅行に参加することに決めました。実際にベトナムに到着するとフエはとても寒く、前半はコートを着て過ごしました。初めてフエ外国語大学を訪れた日は、交流会があり、隣に座ったベトナム人の学生がたくさん話しかけてくれました。日本語がとても上手で優しい学生だったので少し不安が和らぎました。そして、交流会でベトナム人の元気のよさやノリのよさに驚きました。特にフルーツバスケットでとても騒いでいる大学生を見たことが印象に残っています。みんな説明をすごく熱心に聞いていて、ゲームをしているときは大はしゃぎしていました。ダンスもみんな楽しそうに踊ってくれて練習したかいがありました。



ホームステイでは人生初の「カエル」を食べました。ベトナム人はカエルを食べるのだと事前学習の映画で知りましたが、まさか自分が食べるとは考えていませんでした。ホストファミリーが「ごちそう」と言っていたので何の食べ物かきいてみるとカエルと言いま

した。本当に驚きましたが、食べてみると少し鶏肉に似ていました。この体験は本当に未知との遭遇でした。

また、ベトナムで初めてバイクに乗りました。実際に乗ってみたときの爽快感は最高でした。みんな女子大生でも当たり前のようにバイクに乗っているのが日本とは違っているなと感じました。

そして、実際にベトナム語の授業が始まると、アルファベットの発音から独特で私はまずそれぞれの文字の読み方を覚えられるか不安になりました。私にとってベトナム語は日本でほぼ馴染みがありませんでしたが、なんとかクリアできました。特にアルファベットの上に声調記号がついているので単語を覚えるのに苦労しました。しかし、覚えたベトナム語の表現を使ってベトナム人に話しかけて、自分が言いたいことが伝わったときには大きな喜びを感じました。覚えた表現や単語は非常に少ないですが、会話をしている時にベトナム語の単語や数字が少しでも頭に思い浮かんで、自分が話してみるとベトナム人が笑顔で返答してくれました。他にも様々な場面でベトナム人の優しさを感じ、ベトナムのフレンドリーさを体験しました。私は、ベトナム人のようなフレンドリーさを自分自身が日本に帰っても持ち続けたいと思いました。私は、この研修旅行で多くのベトナム人と交流して「ベトナム人のような気さくさやフレンドリーさ」があれば自分の人生をもっと楽しく面白くできるだろうと思いました。日本にいと、機械的に物事をとらえて行き詰まることがあります。その時にベトナム人のことや今回の旅を思い出して、生活していこうと思います。

また、今回の旅では日本がどのような国かをはっきりと外側から見る事ができた気がします。ベトナムという国から日本を見たときに、日本はとても整理されている国だと感じました。交通事情を見てみると日本では横断歩道を使えばたいいドキドキせずに横断できます。ベトナムではバイクが途切れるところをうまく狙って横断しなければなりません。ヒヤヒヤする場面がとても多かったです。日本ではあまり体験できないスリリングな経験で少し面白かったです。ベトナムでは、クラクションの回数が日本と比べてとても多く驚きました。日本はクラクションが鳴るとほとんどの人が反応します。しかしベトナムはクラクションが多すぎて、どこから誰が鳴らしているのかあまりわかりません。タクシーに乗っているときや、バイクに乗っているときに日本と違うなあと思いながらベトナムと日本を比べていました。

そのほかにも今回の旅は自分が生活している空間を見直す機会にもなりました。学生寮

での生活は最初戸惑いました。トイレは自分で水を汲んで流し、シャワーはお湯を使いすぎではいけません。寮での生活が一番長いのに大丈夫かなと心配になりました。しかし、同じ部屋の先輩方がとても面白く生活を楽しむことができ、自分自身も気づけば寮の生活に慣れていました。近くの寮に住んでいるベトナム人学生とも気軽に話ができる環境だったので、日本語、英語、少しのベトナム語で楽しく会話ができました。

今回の旅はベトナムの魅力を発見し、自分の普段の生活を見直す機会になりました。2週間で私がベトナムから吸収してきたものは、今後の私の生活に大きく影響してくると思います。今回引率して下さった伊藤先生、安島さん、そして一緒に参加し、たくさんお世話になったメンバーのみなさん本当にありがとうございました！



これから急速な発展が期待される国 —日本のマニファクチャリイポリシーの通じる国民性—

佐藤 登代子

1. ベトナム語とベトナム人への親近感の源泉

中国上海で長く生活していた自分には、中国語は日本語に比べ、とても「にぎやかな言語」「音調が強い言語」「敬語が少なく会話が単純」という印象があります。基本は4声調がありますが、実際の会話では地方の方言の声調は極端に強弱の差異があり、上海人は隣の江蘇省の会話を理解できない人も多い状況です。さらには上海郊外の農村部の会話は、上海の中心に住むいわゆる「上海人」には、理解できないという現実もあります。

日本語は平胆な発音で耳に静かなのですが、中国語は数人が会話をすると、喧嘩しているようにとてもうるさくなります。なぜなのかいつも疑問に思っていました。今回、ベトナム語を学習した時にベトナム語の気持ち良い語感に接して、この「語感=耳あたり」について特に興味を感じました。伊藤先生はじめ安島さん、語学講座のチャン先生をはじめとして皆さんの会話が、とても柔らかく耳あたりが心地良かったからです。滞在中いずれの場所でも、皆さんの会話の「語感」に心地よさを感じました。

この理由はなにか、自分としての結論はふたつ。

ひとつは声調が中国語より多いことから、全体的な抑揚がよりなめらかに感じるのではないかということです。次に、こちらが主因と思いますが、国民性が自然と表現されたものだということです。ベトナムの人たちは「ベトナム人として生まれた」という誇りが高く、「ベトナム人であること」の満足度が高く、それらの精神が家族や、教師や周囲の大人たちから若者に引き継がれているからだ。つまり、言語の中に民族としての「自信と余裕」が表れていると感じたのです。

このことに気づいたとき、中国語の「にぎやかさ・不必要な強さ」は国民的な「不満と虚勢」からくるものではないかと感じました。中国人の富裕層の90%が子息を海外留学させ、移民を念頭におき人生設計をしているのですから。世界で一番「国を捨てたい」と考えている国民が多いのですから。その潜在的な不満が「日常会話」に自然と現れているのでは

と強く感じました。

とにかく、ベトナム語の語感と誇り高いベトナムの人たちにとても親近感を感じました。ベトナム語をさらに学習して会話ができるようになりたいと思っています。

2. ベトナム人の緻密さ・世界の工場として期待される潜在的な「匠」性

ドーバー市場に2回見学に行きました。ビッグCなどのスーパーマーケットも行きました。うるし工場の見学もしました。そしてベトナム戦争時代のベトコンと呼ばれた民兵たちの作戦跡と戦時物資の数々を見学させてもらってその「モノづくりの緻密さ」に感動しました。初めにホテルに行くバスの中で、市街の様子を目にし、フエの学校近辺を散策したときは、中国の発展よりも15年位は遅れているなど感じました。しかし、いろいろな生産品・調度品・土産品を見ていくうちに次第に考えは変わりました。それらの品質のいずれも非常に精密度が高く、日本に近いことに気づきました。中国製の「いい加減さ・壊れやすさ」とは全く違う「モノづくり」の誠実さが感じとれました。日本の企業が「ベトナム人は誠実で日本人に近いモノづくりができる」と評価していますが、自分でベトナムを体験してそれらの評価を実感しました。ここ20年ですでに発展したと豪語している中国の民生品のレベルよりもずっと高い品質のものが一般向けに販売されていました。

ベトナムは南北統一した後に共産主義政府になったという時期的にも、世界の主義的な流れからも珍しい国です。日本は体制が違う、今はまだ国全体としては発展途上であるベトナムをライバル視してはいないところがあります。しかし、「モノづくり」を国の看板としている日本にとってはベトナムの発展は脅威であると思います。彼らが国全体として発展し「モノづくり」を産業として進めていった時、きっと日本人を超える良い「モノづくり」ができると思います。

3. ベトナム共産主義はどこにあるのか

ベトナムは共産主義政府なので日常的に中国や北朝鮮などのように行動や思想、活動などが統制管理されていると思っていました。しかし、少なくとも今回訪問したいずれの地域や場所でも、統制や管理されているという感じはありませんでした。共産主義政府はいわゆる公務員の割合が多い、約35-40%と聞いていました。中国はまったくその通りで、どこに行っても制服組が目につきます。城管(都市管理員)、交通警察官、公安警察管、そして軍関連の警察官、さらに軍人がいたるところに目につきます。全体として言論や行動に対

する管理や威圧は、非常に強く感じますが中国人民は外国人以上に日々強く感じているようです。政府にむやみに逮捕されないため禁句、行動制限など注意すべきことも多々あります。

ベトナムには、私たちはわずか2週間しかいませんので見えていないのかもしれませんが、少なくとも滞在期間中に目にした「制服の管理者たち」は圧倒的に少ないと感じました。その意味でベトナムの共産主義は自由度の高い民主的な共産主義だと思いました。

ただ2点ほど、共産主義らしいと感じたことがあります。1点は王宮跡での軍事訓練です。大学生には平等に1年間の兵役があり、女性も平等に訓練するとのことでした。また、民間人も有事の際の招集のために、定期的に訓練するそうです。王宮の訓練は観光客の通り過ぎる中で行われ緊張感はありませんでしたが、正規の軍人でなく学生や民間人が訓練していることに共産主義的な平等感を見たような気がしました。

次に、共産主義らしいと感じたのは土地の利用形態です。写真のように建物と建物は互いにもたれあい孤立していないところが非常に面白く、土地の所有権がどうなっているか興味を持って観察していました。私有性や所有権の明確になっている日本のような民主主義の国では建物同士がもたれあっていることはほとんど見られません。事故の際の責任についての明確さがなくなります。ベトナムでは隣の建物を利用して隙間なく3階建てと2階建ての建物が隣接しているので土地の管理は個人個人の所有者ではなく政府なのだろうと思いました。また、店舗は通りに沿って間口に比べて奥行きが長く同じような形で作られている点でも土地の管理が個人でないと感じました。この点が確認したい興味の残っている点です。

4. ありがとうと言いたい

年齢の違う皆さんに同行させていただいて、迷惑をかけたことも多々ありそうですが、自分としてはとても楽しい2週間でした。ベトナム語の学習はきつかったですが、たくさん学べることの多い研修旅行でした。ありがとうございます。

とても精密な作品です。



このハンモックが実用的にとってもよくできています。



足跡の方向性を混乱させるために靴裏に工夫を凝らしている。



2枚の写真のいずれも建物と建物に隙間がありません。

龍が揺らした激動の14日間

小笠原 武仁

1. はじめに

今年の3月で大学院修了となり、長きに亘りお世話になった茨城大学での記憶が私の古文書に綴られる。その最終章に、何か印象深いひとコマを付け足したかった。さらに、大学院1年の9月に国際実践教育演習でタイのプーケットに行ってから、東南アジアの魅力に気づき始めていた。これらのことが、ベトナムという未知の国へ訪問する契機となった。

事前学習会でこの国の文化的背景に関する知識をいくらか得ていたものの、現地に赴いてみてその程度がスイカの種ほどであることを思い知らされた。



図1 スイカの種。フエの喫茶店などでよく見かけた。殻を割って、中の身だけを食べる。

2. ホームステイ

日本からホーチミン・シティ経由でフエに到着した次の日の夜、フエ外国語大学の学生であるロン君宅でホームステイする機会に恵まれた。彼はバイクでホームステイ先へ向かう途中も積極的に日本語で話しかけてくれた。この橋は有名だとか、あそこに見えるのが王様のお墓だとか、フエの料理のことなど、十数分の間、話題に尽きなかった。

彼の家まで着くと、ご両親が暖かく迎えてくれた。夕食に家庭料理を頂きながら、私が日本語で話したことをロン君がベトナム語に翻訳してくれた。そのおかげで、ご両親ともコミュニケーションを取ることができた。長年一人暮らしだったためか、そこで頂いた料理からは、飲食店で出されるそれにはない何かを感じ取ることができた。

ほんの一泊二日であったが、その記憶は今でも鮮明に残っている。私自身が、人との関わりを大事にしてきたからなのだろうか。あるいは、ベトナムに棲む龍のおかげかもしれない。



図2 ホームステイ先で頂いた家庭料理

3. カルチャーショック

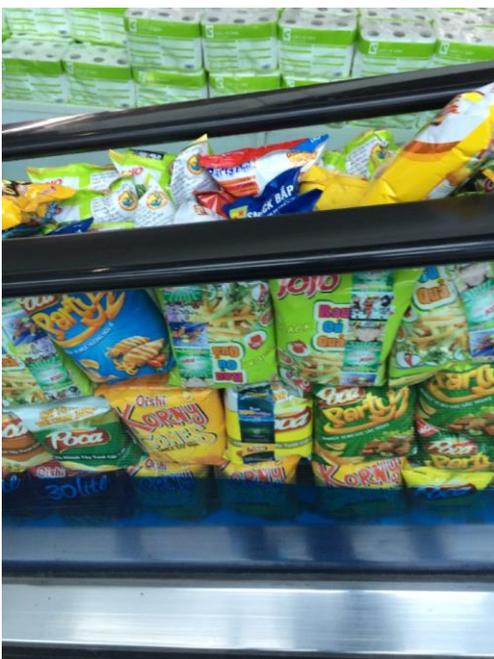


図3 手すりベルト間に陳列された商品

この研修期間の3分の2以上を過ごしたフエでは、ビッグCというスーパーマーケットが生活の拠点だった。食料品、衣類、液体石鹼、お酒など、生活に必要なものを一通り揃えてある。個人的な訪問も含めて、10回近くは行った。

そこは複数階建てなためエスカレーターがあるのだが、なんとその脇にも商品が陳列されていた。確かに多くの人を通る場所ではある。日本でもレジの前に商品が陳列されているが、それと同じ感覚なのだろう。

慎重な私はゆっくり賞味期限の確認ができなかったので購入を控えたが、実際の売れ行きはどうなのだろう。商品を管理するお店の人は大変かもしれない。

4. 食文化

一般に、ベトナムでは食料品が安い。一食あたり、100円～200円で済む。消費税もかからず、一般庶民の財布に優しい。

代表的な料理としてフォーとブンがある。どちらも米粉を水に溶いて練ったものから作るが、フォーはこれを蒸してから平麺にするのに対し、ブンは水に漬けて微発酵させて丸麺にし、茹でる。いずれも麺料理なためご飯よりは食べやすく、食が進む。「フォー！」と聞くとレイザーラモンHGが頭に浮かぶのは私だけだろうか。



図4 フォー（左）とブン（右）。フォーは麺が四角く、ブンは丸い。また、スープも異なる。

この研修も残すところ数日となった3月8日の夜、参加者全員で飲食店に入った。そこで、メインディッシュの前にジュースを注文することになった。ココナッツジュースを注文したところ、ココナッツの実にストローを刺した状態で出てきた。てっきりグラスに入ってくるものだと思っていたから、仰天したことこの上ない。ココナッツがほとんど生育しない日本では、まずあり得ない光景だろう。あとでグラスを洗う必要がない分、このほうが合理的かもしれない。



図5 注文したココナッツジュース

5. 失敗から学んだこと

この研修全体を通しての失敗点を挙げてみたい。まずは、キャリーケース中の構成が思いつく。出発前はフエの学生寮に洗濯機が無く、衣類はすべて手洗いだと聞いていたので、事前に着替えを10日分用意した。その結果、ケースの中身の4分の3以上を衣類が占めることになった。だが実際は寮に洗濯機があり、無料で洗濯することができた。そのため、5日分の衣類は未使用のまま持ち帰ることになった。加えて、3リットルの水が多過ぎた。念のためにと考えたが、研修の2日目にはビッグCで買うことができたから、1リットル持っていけば十分だった。これらの衣類や水に換えて、栄養バランスのよい非常食を持って行ったほうがよかった。現地でも非常食は買えたが、成分表がベトナム語で書いてあり、何が入っているかわからずあまり買う気になれなかった。

我々が過ごした学生寮では、部屋の出入口が南京錠で施錠することになっていた。鍵が一本だけのため、部屋のメンバーの誰かが鍵を持って外出すると、同じ部屋の人が帰ってきた時に部屋に入れなくなってしまう。事務室に鍵を預けておくという方法もあったが、事務室自体が留守のこともあった。この対策として、ダイヤル式の南京錠を事前に用意しておき、元の鍵の代わりに使うというのが妥当だった。ダイヤル番号を部屋のメンバーだけで共有しておけば、鍵がなくて部屋に入れられないということがない。部屋に入れず入口の前で待たせてしまった安島さんには、この場を借りてお詫び申し上げる。



図6 学生寮の敷地内。開放的な雰囲気を感じる。



図7 フエ国際病院

そして何より、体調を崩してしまったということが最大の失敗である。研修5日目あたりから鼻や喉の粘膜が痛くなり、その翌日から鼻詰まりや咳といった症状が出始めた。結果として3月3日にフエ国際病院でお世話になった。思い返せば、アルコールティッシュで手や食器を拭くということは頻繁にしていたが、マスクをするという認識が希薄だった。想定外の低気温や、現地での疲れが重なり、風邪を引いてしまったのだろう。

6. 改善を要する点（先生方へ）

今年度の研修では、2月29日～3月4日までがベトナム語の授業だった。AM8:00から始まる授業のため、朝食にあまり時間をかけられず、パンなどで軽く済ませる学生も多かった。異国の学生寮という慣れない環境の中で十分に休息を取ってから授業に臨むという意味でも、AM10:00開始が適当なのではないかと思う。授業の期間は多少長くなっても、復習にかける時間も確保できるので、ぜひ検討してもらいたい。

7. 謝辞

14日間という短い期間に、ベトナム学生との文化交流会・ホームステイ・ベトナム語の授業・ドラゴンボートツアー・戦争跡地見学・戦争証跡博物館見学・戦争写真家宅の訪問など、実に多くの体験をさせて頂いた。これも引率の先生方をはじめ、たくさんの方々がこの研修に関わり、協力して下さったおかげだ。ここに感謝の意を表するとともに、心より御礼申し上げる。



図8 ドラゴンボートでフオン川を上り、ティエンムー寺とミンマン帝廟を訪問した。

「ベトナム短期語学研修」を引率して —現地でもこそ学べる体験—

地球変動適応科学研究機関 教育コーディネーター / 研究員 安島 清武

今回のベトナム短期語学研修に、正確には「引率補助」として参加しました。現地・ベトナムでは、全行程に同行できず、研修の前半部分の8日間(2/26~3/4)のみの引率となりました。

今回の研修は「ベトナム語」を学ぶという目的がありました。今までに「ベトナム語」を勉強したことはもちろん、ベトナムに行ったことのある参加者も皆無の状況での研修でした。英語によるベトナム語の講義という状況もそうですが、気候や食事や人など身の回りの環境が日本と異なる外国での滞在は、刺激に満ちたものとなっていたのでは、と想像します。ベトナムでの研修を通して、12名の参加者それぞれが、素晴らしい体験をしていることは、参加者の表情が日に日に変わっていくことから感じられました。きっと本報告書にも、参加者が初めて訪れるベトナム・フエという場所での貴重な体験が、生き生きと書かれているのではと思います。

今回の研修の特徴としては、1. 全学部に参加を呼びかけての研修であること、2. 現地での予定を学生が中心になって企画すること、3. 日本語を学んでいるベトナムの学生宅へのホームステイがあること、4. ベトナム語を英語で勉強する体験をすること、などがありました。気が付いた点をまとめてみたいと思います。

1. 全学部に参加を呼びかけての研修であること……12名の参加者には、1年生から大学院生まで、年齢も10代から60代までと多様な学生で構成されました。同年代だけで構成されたグループとはまた違った体験をすることができたのではと思います。

2. 現地での予定を学生が中心になって企画すること……初めからすべて行程が決められているタイプの旅行とは違い、大学でベトナム語の講義を受けている時間以外の予定は、基本的に参加者が決めていきました。もちろん、初めてのベトナムのため、現地での予定を立てるには事前に勉強しなければなりません。そのための事前学習会も、ベトナム語やベトナムの歴史、ベトナムの文化(映画)、交流会の出し物の練習など多岐にわたり、

自主的に複数回開催してきました。細かい部分の提案は伊藤先生からサポートを受けての企画・計画でしたが、受け身ではない「研修」が企画されたのではと思います。

3. 日本語を学んでいるベトナムの学生宅へのホームステイがあること……フエ到着後、フエ大学外国語学部で日本語を学ぶ学生たちとの交流会があり、仲良くなった学生の家へ1泊ホームステイがありました。ホームステイ先での体験については、参加者のみなさんのレポートに詳しく書かれていることと思いますが、普通の旅行ではできない本研修の醍醐味の一つだと思います。このホームステイを通して、ベトナムの学生ともさらに距離が縮まり、学生同士で空いた時間に予定を立てて外出を計画したりと交流を深めることができました。

4. ベトナム語を英語で勉強する体験をすること……まったく知らない言語を母語である日本ではなく第2外国語である英語で勉強する体験をしました。日数にすると数日間のベトナム語の勉強ではありましたが、最終的にはペーパーテストに加え、簡単なベトナム語での受け答えのテストにも合格するまでに上達しました。また、この「ベトナム語」の勉強には強烈な宿題が出ました。ベトナム語を勉強し始めて2日目の宿題として、町に出て、別々の5人からそれぞれ「名前」「年齢」「国籍」「職業」「職場」「電話番号」を聞き出してくるというものです。日本ではプライバシーの問題などもあり、実施が難しい課題かとは思いますが、それを実施しても問題ない空気がベトナムにはありました（例えば、フエ大学外国語学部の先生たちの携帯電話番号や住所もネット上に公開されています）。人と人の距離の取り方の違いを感じる印象的な宿題でした。

上記のように、様々な体験の詰まった素晴らしい研修とはなったのですが、体調面に関しては、今回も病院を受診する学生が複数出てしまったことに加え、入院する学生も出てしまいました。毎日の検温、健康チェックシートへの記入、食事前の消毒シートでの消毒を実施しましたが、防ぐことはできませんでした。来年度に向け、体調面での体制を整えることが課題として残ったのではと思います。

最初に書いたように、私が同行できたのは、研修の前半部分のみでした。後半部分のホーチミン市滞在中で、どのような体験・出会いがあったのか、参加者のみなさんから体験を直接聞くのが楽しみです。

今回のベトナムの研修が、ふとした時に、参加者のみなさんの背中を押してくれる、そんな体験として心のどこかに残ってもらえたら、とベトナムから多くを教えられた者として（学生時代1年半ほどベトナムに留学していました）願わずにはられません。

参加者のみなさん、本当にお疲れさまでした。帰国後のみなさんの活躍を楽しみにしております。



ベトナム語の授業風景

茨城大学発 春のベトナムの旅

人文学部教授 伊藤 哲司

2015年度、今回もまた春のベトナムの旅「ベトナム語短期語学研修」を実施することができた。参加学生は12名。引率教員スタッフは2名。主な滞在先であるフエは当初肌寒さを感じさせるほどの予想外の気候で、当初ちょっと面食らったが、徐々に天候も回復し、ベトナムらしい「暑さ」がもどってきたのにはホッとした。多少体調を崩す学生が出てしまったものの、全体としては満足度の高い2週間となった。まずは協力してくださったすべての関係者に感謝したい。

私自身が学生を引率してベトナムへ行く旅は、2000年度から毎年春休みに実施してきた。毎回、参加人数の多少の増減はあれども、10~10数人の有志の学生の参加があり、この旅に参加することでベトナムに渡航した茨大生は延べ200人ぐらいに上っている。この旅への参加などがきっかけになってベトナムへの留学を果たした学生は10人を超えており、それらの人たちは卒業後も「ベトナム」と関わり続けている人が少なくない。

現在に至るまで、一度だけこの旅を実施できなかった年がある。5年前の2010年度、2011年春のことである。言うまでもなく東日本大震災が発生した時である。3月13日の出発に向けて準備を進めていたが、その2日前に起きた大震災で、さすがに出発どころではなくなり、中止を余儀なくされた。毎年春にはという継続が途切れてしまったのは大変残念であった。しかし翌年度、関係者の協力もあり、すぐにこのベトナムへの旅を再開することができたのである。

2009年度までは、ハノイにある協定校であるハノイ社会人文科学大学での交流がメインであったが、2011年度から諸事情で、その数年前から関わりを少しずつ始めていたフエ大学外国語学部との交流が中心となった。同学部とは、2013年度に人文学部との間で学術交流協定の締結がなされ、今後のさらなる関係深化が期待されている。

協定締結前の2012年度に初めて、フエ大学でベトナム語を学ぶというプログラムを試験的に導入した。そしてそれがおおむね上手く実施できることを確認し、また協定締結を受けて、2013年度から正式にベトナム語入門2単位を取得できるプログラムへと移行した。そのかたちになって今回は3回目ということになる。フエ大学外国語学部で日本語を学ぶ学生たちとの交流会、そしてホームステイというメニューも定着した。フエの名門校・ハ

イバーチュン高校での交流会や、ホーチミン市の戦争証跡博物館の訪問などは今年も実施し、それらも含めて来年度以降も継続していくことができそうである。

広報、参加者と旅程等

まず2015年5月の留学説明会で、この企画の広報を行った。そして、学内に参加者募集のポスターを2015年10月に掲示し、また授業等でも可能な範囲で広報し参加者を募った。また11月・12月に数回、参加についての説明会を実施した。その結果、12人の学生から参加申込みがあった。実際にベトナムに渡ったのはその学生たち12人と教員スタッフ（伊藤哲司・安島清武）2人の計14人である。学生の中には、2人の大学院生も含まれる。実際の参加メンバーは、以下の通りである。

【参加メンバー／所属学年等】

本田茄純	人文学部人文コミュニケーション学科 4年
菊地ほのか	人文学部人文コミュニケーション学科 3年
森田未紀	人文学部社会科学科 2年
鈴木美緒	人文学部社会科学科 2年
鮎川南	人文学部社会科学科 2年
篠原結衣	教育学部養護教諭養成課程 2年
引地菜緒子	教育学部養護教諭養成課程 2年
高橋遥	人文学部人文コミュニケーション学科 1年
栗林朝美	人文学部社会科学科 1年
橋本理沙	人文学部社会科学科 1年
佐藤登代子	農学研究科生物生産科学 M2
小笠原武仁	理工学研究科理学専攻 M2
安島清武	地球変動適応科学研究機関（ICAS）教務補佐
伊藤哲司	人文学部 教授

昨年度は学生10名であったので、微増である。今年度から新設された海外派遣学生旅費支援金（1人あたり一律5万円を支給）があったことも、プラスに働いた。今回学生たちは、自費で10万円代前半で2週間のベトナムでの研修に参加できたことになる。

実際の旅程については、以下の通りとなった。当初から予定していたものに加えて、ベトナムに渡航してから決まった内容も含まれている。なお渡航以前には、数回のミーティングを重ね、ベトナム語の基礎の基礎や、ベトナムのドキュメンタリー映画を鑑賞するなどの事前研修も実施した。

- 2016年2月26日（金）成田出発 ホーチミン市経由でフエへ（フエ泊）
- 27日（土）日本語日本文化学科の学生たちとの交流会
夕方ホームステイへ
- 28日（日）ホストファミリーと過ごす。夕方学生寮へ
- 29日（月）ベトナム語授業（4コマ）
- 3月1日（火）ベトナム語授業（4コマ）
- 2日（水）ベトナム語授業（4コマ）
- 3日（木）ベトナム語授業（3コマ）
- 4日（金）ベトナム語授業（テスト）・文化に関わる特別講義
ハイバーチュン高校訪問・交流
- 5日（土）成果発表、修了式
- 6日（日）ドラゴンボートツアー（フエ泊）
- 7日（月）出発までフリー
夕方の便でホーチミン市へ移動（ホーチミン市泊）
- 8日（火）クチトンネル戦跡見学、
戦争証跡博物館で戦争体験者の話を聞く
- 9日（水）フリー 夜行便で帰国の途へ
- 10日（木）早朝帰国

今回の旅の問題点

全体を通してとくに事故等はなかったが、5人の学生が途中で体調を崩し、フエ国際病院に出向いて受診することになった。うち4人が一度の受診でほどなくして回復したが、1人は食あたりの症状がやや重く、結果として3泊4日の入院をすることになってしまった。しかし、フエ国際病院のおそらく一番いい個室をあてがわれ、治療は順調に進んだ。海外保険を利用してキャッシュレスでの受診手続きもスムーズであった。友だちになった

ベトナム人学生やその家族が何度もお見舞いにも行ってきて、本人にとっても、それはそれで貴重な経験になったようである。

帰国間際に発熱し、帰国直後に成田空港クリニックを受診した学生も1人いた（フエで受診した学生のうちの1人）。その後その学生の回復も確認している。

出発前に自分自身の平熱を把握させ、滞在中は毎朝毎晩の検温と健康チェックシートへの記入を義務づけ、食事の前には必ず除菌シートで手ふきをすることを徹底した。もちろん衛生の度合いが日本とは異なること、ベトナム人が平気なものでもお腹を壊したりすることもあること、屋台などの食べ物はできるだけ避けることなども伝えてあった。健康管理を徹底したつもりであるが、これぐらいのことは起きてしまうことを再確認することになった。

学生たちがそもそも、このような環境に慣れていなかったということもあろう。「清潔」な日本での環境で育ち、抵抗力が必ずしも高くないということもありそうである。次年度以降は、飲食等に関して注意を促すといったことをさらに徹底したい。とはいえ、完全に防ぐということもなかなか難しいのも現実である。ある程度のリスクがあることを、事前に学生にも周知する必要がある。

もちろん安全面にも留意した。学生たちが行動するときは、単独行動を避けることも指示し、学生たちもそれに従った。出発前にLINEのグループ（教員スタッフ2人を含む）を作成し、ベトナム滞在中もしばしばそれで連絡を取りあった。LINEを使った連絡はきわめて有効に働いた。LINEでは、グループ全体へのアナウンスだけでなく、個別の連絡もできるし、電話代わりに通話もできる。昨年度から導入した方法だが、その有効性が今回も実証された。

お金については、共通財布をつくり会計担当者がもつことによって、食事のたびの支払いなどは比較的スムーズにいった。おおむねどの学生からも予算オーバーになって困ったという声は聞いていない。共通財布に入れるために集金したお金は、最後は微調整しながら使い、残金は小さなお土産を全員分買って、上手く使いきることができた。

これら以外の点では、とくに問題はなかったと認識している。

今後の「ベトナム短期語学研修」に向けて

この旅に参加した学生たちが綴ったレポートを読んでもいただければ、この研修のインパクトの大きさや教育的効果の大きさは十全にうかがえるだろう。全員が熱心に授業に取り

組んだ結果、いずれの学生も高得点を得て、茨城大学の基準で A 評価以上（80 点以上）を取ることができた。交流会の内容などは、学生たちが自ら企画し準備をしたものである。また今回も、フエ大学側の全面的な尽力で、1 泊 2 日のホームステイが実現したのもよかった。そうしたよい面は今後も引き継ぎ、次年度以降の企画を立てていきたいと考えている。

なお昨年度に続いて今回も 2 人体制で引率を行ったが、それによって体調を崩した学生への対応がよりの確にできたことは間違いない。フエ大学の教員たちの協力も得られたものの、引率教員 1 人ではどうしても手が回らないことがある。女子学生の参加が多いことから、女性教員の引率が望ましいと考えているが、今回は結果として依頼できる人が見つけられず、ICAS 教務補佐の安島清武さんに依頼した（ただし仕事の都合で 3 月 5 日まで）。伊藤ゼミ出身の彼には、大学院国際実践教育演習の引率を何度も行ってもらっており、かつベトナム語が堪能であるということで、今回の引率者として適任であったと考えている。ベトナム語の授業の復習でも、彼が大いに活躍してくれた。次年度の体制はまだわからないが、「安全」を最優先に、今後も複数体制での引率ができるようにしたい。

最後に、今回のこのレポート集（報告書）の編集は、参加した学生たちにその多くを委ねたことを付言しておく。参加学生たちがこの研修参加を通して何かを掴み、今後一皮むけて何かやってくれることを期待している。

2016 年 3 月 21 日

人文学部人文コミュニケーション学科教授 伊藤 哲司

Trang 先生からのメッセージ

Dear the students from Ibaraki university,

My name is Trang, your Vietnamese teacher. First of all, I want to say that all of you are so nice, guys! Being your teacher was my happiness.

I know that Vietnamese is so difficult to learn. When I saw you try your best to pronounce or spend all your free time to remember vocabulary or shout aloud when I gave you homework,... I really felt moving. But you tried your best and the result is quite good.

I hope that what you learnt is interesting. And I also hope to see you again as soon as possible!

Take care and best wishes for you!

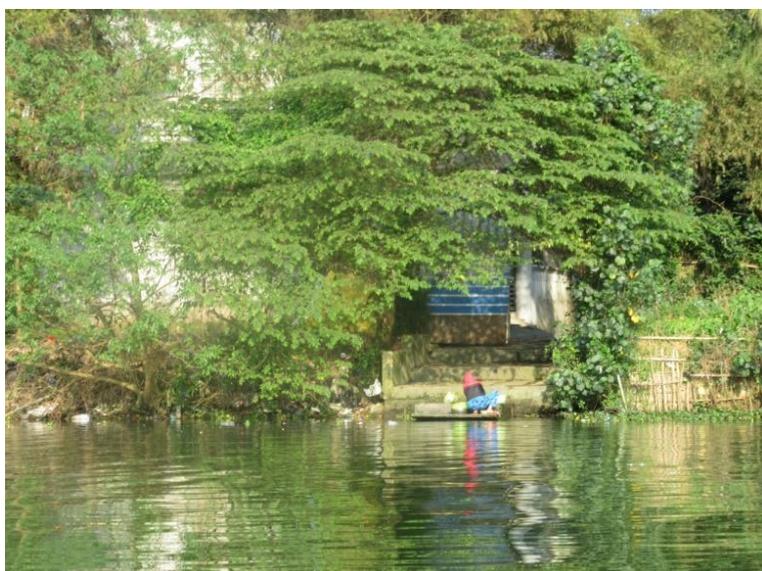
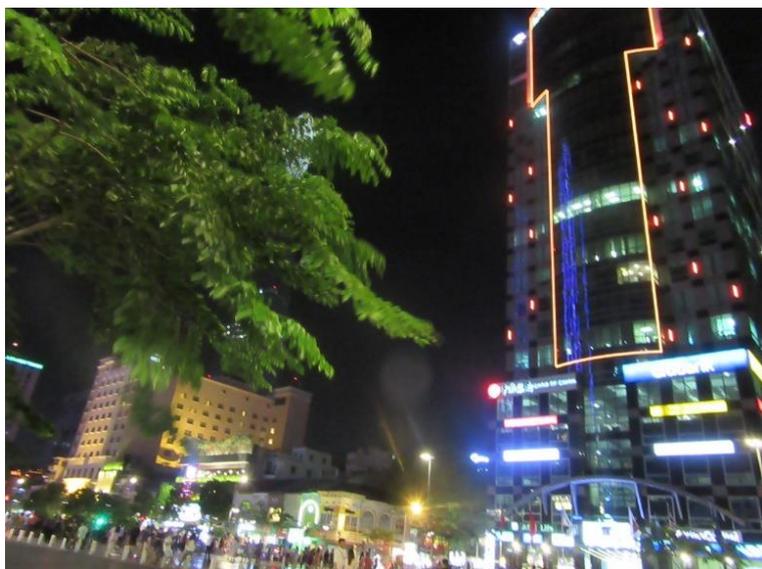
Your teacher,

Trang



【写真集】





















どらえもんかか 弁当













ベトナム研修

のしおり 2016



～もくじ～

目次

P1

出発にあたって

P2

持ち物等

P3

交流会の内容

P4

連絡先

P6

安全のために

P8

注意点

P9

自己紹介

P10

日程表

日付	時刻	予定	宿泊地
2月26日	7:30 (日本) 9:30 (日本) ↓ 13:50 15:50 ↓ 17:10	成田空港 第1ターミナル北ウイング4F「ガラスタワー」 (CカウンターとDカウンターの間のご案内カウンター付近)集合 ※万が一遅れる場合は伊藤先生に連絡を! 出発✈ ↓ (6時間20分) ↓ ホーチミン着(ターミナル2)✈ ホーチミン発(ターミナル1)✈ ↓ フエ着✈	センチュリーリバーサイドフエ (ホテル)
27日		交流会・ホームステイ	ホームステイ先
28日		ホストファミリーと過ごす 夕方学生寮へ	フエ大学学生寮
29日～ 3月4日		ベトナム語授業(1日3コマ) (4日は4コマ、最終コマはテスト)	
5日		ベトナム文化に関わる講義・成果発表(3コマ)	
6日		オプションツアーorフリー	
7日	18:10 ↓ 19:30	午前中フリー フエ発✈ ↓ ホーチミン着(ターミナル1)✈	ボンセンII (ホテル)
8日		戦争関連の博物館等を見学	
9日		オプションツアーorフリー 夜行便で帰国	
10日	0:40 ↓ 7:45 (日本)	ホーチミン発(ターミナル2)✈ ↓ (5時間50分) 成田着(第1ターミナル)✈ お家に帰るまでがベトナム研修です。	

****持ち物****

▼必要なもの

- パスポート
- 海外旅行保険証
- パスポート以外の身分証明書
- 現金
……6~8万円くらい。両替は現地で。
- 航空券
- カメラ、電池
- 時計
- ジッパー付ビニール袋
……空港で手荷物に液体を持ち込む場合

- 衣類、下着
……冷房対策用に羽織るものもあるとよい
- 洗面用具
……くし、歯ブラシ、かみそりなど。
感染症予防に自分のものを。
- 洗濯用品
……洗剤、洗濯ひも、洗濯バサミ、ハンガー
- 帽子、日焼け止め
- 虫よけスプレー
- 折り畳み傘

- 薬
……処方されたもの以外、現地のものは服薬しない
- 爪切り
- ビニール袋、輪ゴム
- トイレトペーパー
- ティッシュ
- 生理用品
- ウエットティッシュ

▼あるとよいもの

- 日本の食べ物
……お腹を壊したときにあるとよい
- ちょっとしたお土産
……ホームステイ先などに渡す
- 粉末のお茶・スポーツドリンク
……買った水に溶かして飲む

▼不要のもの

- 変換アダプター……基本的に不要とのこと。
- ドライヤー……日本のものは使用不可。先生のものをお借りするか、現地購入。

****ベトナムについて****

通貨：ドン

レート： 1円=196.29ドン (2016/02/15時点)

時差：日本時間マイナス2時間

！体調を守るために！

手を拭いてから食べる

暴飲暴食をしない

よく噛んで食べる

アルコールに注意

水道水は飲まない、心配なら屋台では氷を抜いてもらう



(TUK TUK)

連絡先一覧

- 伊藤先生：●●●●-●●●●-●●●● ベトナムでの番号：
- 安島さん：●●●●-●●●●-●●●●

フエ外国語大学 (Hue College of Foreign Languages University)

住所: Tầng 1, Nhà Hiệu bộ, Trường Đại học Ngoại ngữ - Đại học Huế, 57 Nguyễn Khoa Chiêm, Tp Huế

電話: (054) 3830.723

在ベトナム日本大使館 (Viet Nam Embassy of Japan)

27 Lieu Giai Street, Ba Dinh District, Hanoi, Viet Nam

電話: (84-4) 3846-3000 10

在ホーチミン日本国総領事館 (Ho Chi Minh Consulate-General of Japan)

住所: 261 Dien Bien Phu Street, District 3, Ho Chi Minh City, Viet Nam

電話: (84-8) 3933-3510

ツーズー病院

住所: 284 Công Quỳnh, Quận 1, Tp.HCM

電話: (08) 54 042 829, 38 395 117, 38 392 722

戦争証跡博物館

住所: 28 Vo Van Tan St. Dist.3 HCM City (ベトナム語): 28 Vo Van Tan, Q3

開館時間: 7:30-12:00/13:30-17:00

入場料: 1 万 5 千ドン

ロータスクリニック (ホーチミン) ※日本語が通じます。

住所: 3F, The Lancaster, 22 Le Thanh Ton, District 1, HCMC

☎電話: (08)3827-0000

フエ中央病院 (Hue Central Hospital) ※英語、仏語も通じます。

住所: 16 Lê Lợi - Huế

☎電話: 054-382-2325

安全のために(必ず目を通してください)

- ① 海での遊泳、夜間の無断外出、過度な飲酒などの安全上問題となる行為は禁止します。観光旅行ではなく大学の演習であること、団体行動であることを絶対に忘れないでください。
- ② 滞在中、複数人でも無断で外出せず、必ずスタッフに声をかけてください。
- ③ 学生寮での門限は 時です。
- ④ 少しでも危険と判断される場合は安全を優先し、慎重な気持ちや冷静さを常に保ってください。
- ⑤ 現地の人が大丈夫な食品でも、外国人の私たちにとっても大丈夫とは限りません。水道水、ドリンクの氷は腹痛の原因になり、屋台物は絶対に買わないようにしてください。
- ⑥ 生活環境が全く異なり、健康を害するリスクが常に高いことを意識してください。アルコール類があっても、普段以上に控えめにしてください。

・昆虫・動物にも注意してください

- ① 蚊などは病原菌を運んでくることがありますので、虫刺されには注意してください。
- ② 現地の動物には触れないようにしてください。

△注意点・豆知識△

- * 体調不良に備えて常備薬を忘れずに！
- * 食事のマナー：どんぶりに口をつけない
- * ベトナムとの時差：日本時間－2時間
- * チップは基本的に不要
- * 写真について：ベトナムでは妊婦を撮るのはNG
- * ベトナムでは3が不吉な数字と考えられている
- * 氷抜きで：Dung cho da (ドゥン・チョー・ダー)



名前: 本田 茄純 (ほんだ かすみ)

所属: 人文学部

係: 団長

～一言～

台湾、食、旅行が大好きです♪

ベトナム研修では、精一杯学び

精一杯楽しみたいと思います◎

一生の思い出に残る旅にしましょう!!

皆さん、よろしくお願い致します^^



おがさわら たけひと
小笠原 武仁 (男)

理工学研究科理学専攻(化学系) 2年

ベトナム語学研修副団長



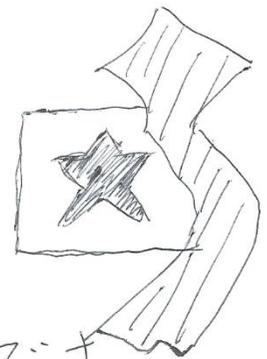
理系出身という少数派の参加者です。みんなと歩調を合わせつつ、個性を出していけたらいいな。ベトナム語は難しそうだけど、しっかり学んで日本に帰ってきたい。

あじま きよたけ
安島 清武

An Dao Thanh Vu

ベトナムが大好きです。

みなさんと一緒にベトナム語を勉強できるのが楽しみです。よろしくお願ひします。



いとう てっじ
伊藤 哲司

1964.
5.19

(人文学部教授/ICAS機関長)名古屋うまれ

今年で52才になります。みんなの父親ぐらいでしょうか。ベトナムには100回近く行っています。帰るころだと思っています。この研修を通してみんながどう変わるかが楽しみです。たくさんいろいろ話をしましょう。

まぐち

蘭地 ほのか

人文学部 人文コミュニケーション学科
人間科学コース 3年次

しおり係です。食べることと馬が好きです。
初めての海外で緊張していますが、有意義な
旅にできるようなりたいです。
どうぞよろしくお願ひします。



ひきち ねおこ 引地 菜緒子

教育学部 養護教諭養成課程 2年
しおり係

趣味はテレビを見ることです。
よろしくお願ひします!



くりばやし 栗林

あさみ 朝美

*人文学部
社会科学科2年

しおり係

好物：お米、からあげ、おし
よろしくお願ひします!



人文学部
社会科学科2年
文化交流系

魚生川 南

SUKEGAWA MINAMI



韓国とまる子ちゃんが大好きです!!!
みなさんと楽しく有意義な時間を
過ごしたいです!! よろしくお願ひします

すず き み お
鈴木美緒

人文学部 社会科学科
経済経営コース 2年



名前 高橋 遥 (たかはし はるか)
所属 人文学部 人文コミュニケーション学科 1年
係 文化交流

たくさんの人と仲良くなって
楽しい研修にしたいです。
よろしくお願いします!!



好きなもの
ダンス、歌、運動、睡眠、食事
スイーツ、お笑い、観劇、語学

森田 未紀

人文学部 社会科学科 地域研究・社会学コース
2年次 会計係

この年で99人とお会い
するのは本当に素敵は旅に
なれたらと思っています♡



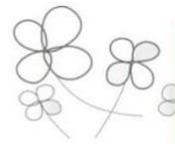
人社 1年

はしもとリサ です。

。会計係です!!

みかんが大好きです🍊
よろしくお願いします☆





“雑草”のいろいろなこと。例えばセイタカアワダチソウとクズの関係などを勉強しています。映画を見ることと機械を分解して、また組み立てることが好きです。趣味というほど継続的で長期にわたり熱中することがなく、生活も人生も一般的からは少しずれているかもしれません。うずら豆と柿が好きで、いくらやウニが苦手、ピーナツバター類はまったく食べられません。



大気汚染の進んだ自室の窓からの景色です。午前9.30

1949年、海なし県の群馬に
 生まれました。

Sato Toyoko,

1998年から、1年
 のほとんどを中国
 の上海を中心に生
 活していましたの
 で、最近の日本が
 よくわかりません。

シラバス

【授業科目名】

ベトナム語入門

【担当教員】

フエ大学外国語学部講師・伊藤哲司

【概要】

フエ大学外国語学部で開講されるベトナム語入門の授業である。ベトナム語の初歩を学ぶことを通して、漢字文化圏にあるベトナム語がどのような言語であるのか、またその基本的な成り立ちについて理解をすると同時に、ごく基礎的なベトナム語の読み書き話す力を身につける。同時にベトナム文化についても、理解が深められるきっかけをつくる。

【キーワード】

ベトナム語、ベトナム文化、漢字文化圏

【到達目標】

- ① ベトナム語がどのような言語であるかを理解できる。
- ② ベトナム語の初歩の読み書き話す力を身につけることができる。
- ③ ベトナム文化についての理解の手がかりを得ることができる。

【授業計画】

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| (1) オリエンテーション／ベトナム語とは | (9) 語彙を増やす (2) |
| (2) ベトナム語の文字と表記 | (10) 語彙を増やす (3) |
| (3) 簡単な挨拶表現 | (11) 肯定文・否定文・疑問文 (1) |
| (4) ベトナム語の表記に慣れる／発音 | (12) 肯定文・否定文・疑問文 (2) |
| (5) 名前を尋ねる／名を名乗る | (13) 自己紹介をする |
| (6) 出身を尋ねる／出身を答える | (14) ベトナム語のことわざを知る |
| (7) 仕事について尋ねる・答える | (15) まとめ |
| (8) 語彙を増やす (1) | (16) 試験 |

【履修上の注意】

予備的な知識は基本的に必要ないが、渡越前に行われるベトナム語予習 (3 回を予定、伊藤担当) に参加していることを受講の条件とする。またベトナム語入門に続いてフエ大学で行われる予定の「ベトナム文化に関わる講義」「ベトナム関連の授業を受講しての成果発表」にも参加をすること。

【成績の評価方法】

平常点 (70%) + 試験 (30%) で評価する。16 回目に試験を行う。

【教科書・参考書】

教科書：宇根祥夫／ゴー・ミン・トゥイー著 『ゼロから話せるベトナム語：会話中心』三修社、
2400 円

参考書：特に定めないが、ベトナム関連の書籍を事前に読んでおくことが望ましい。

緊急再募集！

まだ空きがあるってよ。ぜひ行ってみようよ！



「ベトナム短期語学研修の旅」へのお誘い

まだ余裕があるのでさらに募集します！

追加の説明会／参加者顔合わせ会を以下の日時・場所で行うことにしました。参加を考えている人はぜひ来てください（弁当持参可）。また出席はできないものの参加したいという人は、人文・伊藤までメールで連絡してください。

12月16日（水） 12時10分～12時50分 人文27

旅行日程予定（13泊14日、機中1泊を含む）

- 2月26日（金）成田出発 ホーチミン市経由でフエへ（フエ泊）
- 27日（土）日本語日本文化学科の学生たちとの交流会 ホームステイへ
- 28日（日）ホストファミリーと過ごす。夕方学生寮へ
- 29日（月）～3月4日（金）ベトナム語授業（2単位取得可！）
- 5日（土）ベトナム文化に関わる講義＋成果発表
- 6日（日）オプションツアー or フリー
- 7日（月）午前中フリー 午後の便でホーチミン市へ移動（ホーチミン市泊）
- 8日（火）戦争関連の博物館等を見学等
- 9日（水）オプションツアー or フリー 夜行便で帰国の途へ
- 10日（木）早朝帰国

大学から5万円補助が出るので、実質負担がこれぐらい。これまでよりもお値打ちです！

参加費：約12万円！（オプションツアー代・お土産代等を除く）

参加資格：茨大の学生・院生なら誰でも

（ビザ等の関係で渡航が可能であれば留学生も可）

問い合わせは人文教員・伊藤哲司

(tetsuji.ito.64@vc.ibaraki.ac.jp)



「ベトナム短期語学研修の旅」へのお誘い

経済発展の著しいベトナムは、とても魅力的なフィールドです。この旅では、人文学部が新たに協定を結んだフエ大学外国語学部でベトナム語の初歩（2単位）を学ぶとともに、日本語を学んでいる学生と交流し、ベトナム戦争の歴史に触れ、ベトナム文化を深く知る機会を提供します。一般の観光旅行とはひと味もふた味も違った旅になるはず。一緒に旅をつくっていきましょう。ふるってご参加ください！

旅行日程（予定） 2016年2月26日（金）～3月10日（木）（13泊14日、機中1泊を含む）

- 2月26日（金）成田出発 ホーチミン市経由でフエへ（フエ泊）
- 27日（土）日本語日本文化学科の学生たちとの交流会 ホームステイへ（フエ泊）
- 28日（日）ホストファミリーと過ごす。夕方学生寮へ（フエ泊）
- 29日（月）ベトナム語授業（3コマ）（フエ泊）
- 3月1日（火）ベトナム語授業（3コマ）（フエ泊）
- 2日（水）ベトナム語授業（3コマ）（フエ泊）
- 3日（木）ベトナム語授業（3コマ）（フエ泊）
- 4日（金）ベトナム語授業（4コマ、最終コマはテスト）（フエ泊）
- 5日（土）ベトナム文化に関わる講義+成果発表（3コマ）（フエ泊）
- 6日（日）オプションツアー or フリー（フエ泊）
- 7日（月）午前中フリー 午後の便でホーチミン市へ移動（ホーチミン市泊）
- 8日（火）戦争関連の博物館等を見学（ホーチミン市泊）
- 9日（水）オプションツアー or フリー 夜行便で帰国の途へ
- 10日（木）早朝帰国

※フエでの宿泊は初日はホテル、あとはフエ外国語大学学生寮、ホーチミン市はホテル泊。

※ ベトナム語授業（90分×15コマ分）を修了すると、「ベトナム語入門」2単位が認定されます。

費用 約12万円（オプションツアー代・お土産代等を除く）

その他 今回の旅には、人文学部教員・伊藤哲司が同行します。皆さんが安全に旅を続けられるようサポートしていきます。また、茨城大学に留学中のベトナム人留学生の協力も得ながら、事前にベトナム事情やベトナム語の勉強会なども開いていきたいと思っております。その他、質問は遠慮なく伊藤までお寄せください。

伊藤の連絡先 tetsuji.ito.64@vc.ibaraki.ac.jp（Facebookも可）研究室 人文学部 A422

申し込み期限等 12月4日（金）以下の申込用紙を伊藤研究室（人文A422）まで持ってきてください。これ以降でも、航空券の手配ができる限りは受け付けますが、できるだけ早めに人数の確定をしたいので、早めの申し込みにご協力してください。

----- キ リ ト リ -----

名前（ローマ字表記も） _____ 性別 _____ 学部 _____ 学科 _____ 学年 _____ 年 _____
（※ローマ字表記はパスポート通りに）

誕生日（西暦で） _____ 電話番号 _____ メールアドレス _____
（※パソコンからのメールが受けられるアドレスにしてください。提出後伊藤宛にすぐ、そのアドレスからメールを1つ送ってください。MLを作ります。複数アドレス登録可）

パスポート取得の有無 〈既に取得済み これから取得予定〉
国籍 〈日本・日本以外（※ビザが必要な場合もあります）（具体的に _____）〉
海外渡航の経験 〈経験あり（ _____ ）回 ・ 経験なし〉
→ 経験ありの場合の渡航先（ _____ ）
今回の旅に参加しようと思ったきっかけや現地でやりたいことなどを裏に書いてください